時代では遠距離交易や文化の伝 を有した人々の航海により、

先史

播が行われた。

度にわたり。伊勢湾西岸の地域の弥生時代では前期と中期の二

人々による海を介した広域に亘

第 271 号 発行所 小田原史談会 小田原市早川 60 青木方 TEL (22) 8852

相模湾からみた人類の歴史 E

(講師) 杉山 浩平(東京大学特任研究員)



講師・杉山浩平さん

知のかたもいらっしゃるかもしれ 放映していただきましたので、ご存 町の遺跡の発見などはテレビでも 富士山の宝永噴火で埋まった小山 小田原史談会では、私、

文化成立の起点となった。

模湾沿岸地域は関東地方の弥生 る交流が行われた。その結果、

はじめに

、潮の流れなど海に関する

とを話させていただきました。イタ 私が行っている研究のなかから、火 引受させていただきました(註・本 模沼田にある遺跡のことなどでし リアのポンペイ遺跡や南足柄の相 山噴火で埋没した遺跡の調査のこ 誌二四八号に報告掲載)。このときは、 りました。親戚筋の杉山虔一(け た。その後もこの研究を続けており んぃち) さんから、お話をいただき 話をさせていただいたことがあ ○一六年にここUMECOの方で

相

しい文化が生まれていったんだがやってきて、その交流の中で新 ということです。 弥生時代では重要な起点になっ だと思います。水田稲作が始まる 先史時代においては非常に重要 ないし相模湾の地域というのが だける方がいらっしゃるかどう 作を始めたのではなく、外から人 住んでいた人たちがいきなり稲 ています。それは小田原の地域に かわからないですが、この小田原 先史時代までご興味持っていた 史談会の皆さんですと、あまり

鴨宮の巡礼街道そばにある中里例えば、その交流の地の一つが ていきたいと思います。 辺りです。そこの話をメインにし 所は今のダイナシティウエスト 遺跡というところになります。場

弥生時代のお話をさせていただ ければと思います。 もう一つの別の研究で 目

をさせていただければと思いまを研究しておりますので、その話 関わってきたのかというところ た交流というか、人類と海がどう く中で最近は特に、この海を介し ろがあります。いろいろやってい ぐ西湘バイパスというところだ 私は浜町の蒲鉾屋がいくつも並 ったので、海には親しく思うとこ んでいるところで生まれ、裏がす ご紹介いただきましたように、

短歌 史談再録 浅羽佐喜太郎と 酒匂川水系に見る 苦瓜の蔓 ファン・ボイチャウ 治水技術の継承 片桐 田 石井 敬士: \Box 誠 二 : 稔晴:: 24 18 14

百七十一 号 (令和四年十月号) 次

講演録

相模湾からみた人類の歴史(上)

杉山 1

小田原の梅干 下

前羽地区を中心に―

柏木 9

銀行支店長を勤めた (第一五九号より)

片岡永左衛門さん 南里 哲…… 25

片岡日記・大正編」 発刊 27

拓本集団 屋の組 始動

会員募集 : 13

五年初詣参加募集 8

令和

特別賛助会員・落穂集 新会員紹介・会員募集 8 28

させて頂ければと思います。 私の方でもこういう機会で紹 念して色々イベントがあります。 文化財に指定されました。指定さ 器類が、二年前に神奈川県の重要 うど中里遺跡から出た土器や石 ていただければと思います。ちょ かという話をしたいと思います。 器時代の古い人たちが、海をどう ので、先史時代、縄文時代、旧石 限定的な話になってしまいます ことになるわけですが、それを記 れると、それらが保護されていく いうふうに航海して行動してた その後で中里遺跡の話をさせ ただし、そこから入るとかなり 介

囲まれた小田原の地形

思えるからです。

れました。 上手く撮れないのですが一応撮 す。天候の関係もあってなかなか 田原上空を飛んだときの写真で まず、「黒潮から相模湾へ」です。 下の写真は飛行機に乗って小

くるのが一番楽だというふうに り交通路としては海から入って 湾が重要であるかというと、やは まれた小田原の地形で、 ね。もうちょっと広いのかなと思 野はそんなに広くはないんです あって大磯丘陵があって、足柄平 いかと思うのですが、箱根の山が 案外と狭かったわけです。山に囲 住んでいるとあまり気付かな ちょっと今回調べてみたら なぜ相模

上空から見た小田原の地形

りる、ここはやはり難所なのだと 坂道を上って行きそしてまた降 が多いんですが、足柄峠を越えて で小山町や御殿場市に行くこと けです。最近、私は富士山の研究 東へ来るっていうのは難しいわ 越えて西へ行く、もしくは西から の山より東っていうのは、西の人 海道として使われたわけで、 感じます。そこがかつては古代東 いこうとすると、やはりかなりの 高さになるんですね。容易に山を があります。箱根峠の標高が八四 ようなものといえるのではない たちからすると大きな壁がある いうことで、これはやはり相当な バミ、そして足柄峠が七五九 ミと 小田原の西側には箱根 0)

小田原の東側には大磯丘 一陵が

> できているわけです。大阪平野は三川が流れていて大きな平野が 弥生時代のころは河内湖といわ る濃尾平野は二十キロもあって 川の両岸に平野が広がってます 小田原の平野というの の幅は十キロぐらいでした。 れる大きな入り江だったので、 はおそらくもっとあるんですが、 結構広いですね。あそこには木曽 川とあって十四キロ、名古屋があ の平野ですが、これが安部川と巴 の静清平野というのは静岡・清水 て割と広いんですね。また、 るので、十キロぐらいの幅があっ が、あそこは色々な川が入ってく 比べて例えば平塚あたりは、相 なってくるかと思います。これと 幅が五キロから六キロぐらいし あります。この山と山で囲まれた 十キロぐらいなんですよね。現在 かありません。非常に狭い地域に 静岡 そ

えるといいかなと思います。 うのは狭いんだなと知ってもら てみても、酒匂川の足柄平野とい そういった色々な地域と比べ

が広い方が水田をたくさん作れお米をつくる時代ですので平野 うのが問題になるかというと、弥なぜ平野が狭いとか広いとい わけです。ただし、そう一筋縄に 本的には広い平野を好んでい るということで、弥生の人々は基 生時代は、言わずもがなですが、 なぜ平野が狭いとか広いと かないというのがこの 小田田 た

> また後ほど話をさせてもらいた の特徴でもあるのですが、それ いと思います。

黒潮の分流と反流

うなりますね。 たら海から来るの では山を超えるのが難しか か? まあそ

と思います。それはなぜかという と、やはり黒潮です。 場であるということはご存知か くさん鰤が取れたとか、豊かな漁 らいろいろ聞きましたが、昔はた 反面、昔から私の父とか祖父母か 適さないところもあります。その 急に深くなっていて海水浴には 小田原の海ですが、 波が高く

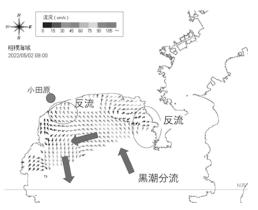
魚も豊富でいいものが獲れると いうことになります。 いる。黒潮は水温が高いですから る黒潮が小田原の近くを流れて 南から太平洋を時計 回 りに П

真っ直ぐ流れるのではなく、こう 方に入って来ています。 部が伊豆半島に沿って相模湾の っと東に抜けて行くんですが、一 とも言われます。伊豆半島からず 潮が大蛇行すると流れが弱まる 大蛇行すると言われています。 入って渦ができる関係で、黒潮が 年は、紀伊半島沖に冷たい海流が いろいろ蛇行しています。この数 のかという図です。黒潮はずっと るのは黒潮がどこを流れている これは五月一日、次頁上段にあ こういう 黒

ものです(中段の図)。 あります。これが反流と言われる 反対側方向に回って行く流れが 巻くわけですが、それに対抗して けて分流がこう入ってきて渦を かです。 が相模湾に入ってきてどうなる を分流と言いますが、黒潮の分流 枝分かれしている、そういうもの 本流と言われる太いところから ことは結構あるようです。黒潮の 相模湾の真ん中部分に向

を渡るというのは、 とが起きたのです。ですから、 に体力を使ってしまうというこ ういうことができないと、 らうまく潮を読む、潮に乗る、 行けますが、当時は手漕ぎですか とか関係なく目的地に真っ直ぐ 今はエンジンの船ですから、 おいてはよく行われたわけです。 向かって行くというのが、古代に か陸地にたどり着けないで、 こういう反流を利用して、 単に体力があ なかな 反流 陸に 海洋 速 幸 Gruick Bullskin of Gregor Growdstown And Gold Bulls - 1997 5月 1日の海況 Ocean condition: 1 May.

5月1日の黒潮 (海上保安庁HP)



黒潮分流と反流 (海上保安庁HP)

ないかと思います。

を果たしたんだという事になっ させていただきました。 識というか、前提をちょっと説明 本列島地域にかつて存在し、その いうことで、そういう人たちが日 合的な知が必要になってくると てくるかと思います。基本的な知 人たちが歴史的には重要な役割 ばできるのかというのでは 潮を読める天気を読める、

総

黒曜石を求めて海を渡った人々

究が盛んになってきています。そ からなんです。 の活動というの れは、神津島の黒曜石を巡る人類 いになります。最近この分野は研 万七千前とか三万八千年前くら る弥生時代から一気に遡って、 時代は今日の話のメインであ が分かってきた

豆諸島に行くことは少な

ます。 数回ぐらいしか無いん津島までいくと、多分、 思います。大島はちょっと天 ら五十キロ、小田原から一一 見ることができます。でも神 気が澄んでいればなんとか す。その南の利島や新島は空 気が良ければ普通に見えま 原からほとんど見えないと 〇キロにあり、おそらく小田 回ぐらいしか無いんじゃ 神津島は新島の南、下田

くということが、この神津島の黒に回避しながら資源を取りに行 朝を横断して行くっていうのはを黒潮が流れているからです。黒 ことだったと思います。ある意味 ということを体験しました。今の 潮から降りると落ち着いていく その時にやはり黒潮に乗っかる 悪くなるぐらいでした。その近く 曜石めぐる問題にあるかと思い 生命に危険が及ぶリスクをいか 時代の丸木舟ではもっと大変な 感じがして船はガタガタ揺れ、黒 と、船がヒュッと上に上がってる に調査で頻繁に行っていました。 ます。十年ぐらい前に私は三宅島 ですが、まあひどく揺れて気持ち 電車で行ってから船に乗ったの 私も最初行ったときは、下田まで とまたさらに行きづらいですね。 大型客船でもそうですから、先史 今の船をもってしても結構揺れ かもしれませんが、神津島となる

神津島など伊豆諸島と相模湾 (グーグル・マップに加筆)

り旧石器時代から縄文時代にか 畑の方に行ったところにも黒曜 ろから入って行く道があるんで 畑宿にある寄木会館の裏のとこ 深百どぐらい、 けて頻繁に使われていました。 ところの黒曜石が先史時代、つま 石がよく落ちています。こういう 鍛冶屋ですね、湯河原駅から蜜柑 が落ちています。 すが、その辺に行くと結構黒曜 郊では箱根の畑宿でも採れます。 るところがあります。小田原の近 は六十カ所ぐらい黒曜石が採れ 天然のガラスがあります。日本に らい距離が離れているというイ メージを持っています。 この神津島ですが、ここには水 この神津島には、黒曜石という あとは湯河原の 石

時代は今よりも気温が低いの 間の海底に入っています。旧石器 と云われる深い溝が伊豆半島 あるいは百以以上

りもっと海側に陸地が広がって ます。よって、 なかったと考えられます。 はどうしても陸とは繋が 以上の溝があるとなると、 ただ、伊豆半島の東に百メートル てもらえればいいかと思います。 もひとまわり大きくイメージし 水面は低かったと言われてい 日本列島はいまの姿より 今の陸地の範囲よ "って 神津島

日本列島域への人類の到来

ちがいたことが語られはじめまを渡って石を取りに行った人た ます。つまり、人類がアフリカを 料となる宝物の石があるぞとい 黒曜石を取りに行くこともでき だからこそ、海を渡って神津島に を渡れる集団だったのでしょう。 た人々は、おそらく船を漕いで海 出発して世界中に拡散するなか で作られた石器が発見されてい いの遺跡からも神津島の黒曜石 がやってきた三万八千年前くら した。最近では、日本列島に人類 で作った道具しかない時代に、海 すると旧石器時代という石や骨 まれていることがあります。そう 析してみると、神津島のものが含 ので、どこの火山のものなのか分 は火山で作られる天然ガラスな 曜石の石器が出てきます。黒曜石 たと思います。神津島に石器の材 旧石器時代の遺跡を掘ると黒 日本列島に最初にたどり着い

旧石器時代の丸木舟

うことが分かり、エッチラオッチ ラ船を漕いで行ったと想像して

うことを実験しました。これは

HKでやっていたので、ご存知の

方もいらっしゃるんじゃない

す。左の石器の写真は、この遺跡 井出丸山遺跡というのがありま 遺跡の一つとして、沼津市にある の黒曜石であることがわかりま 石器で、そのほぼすべてが神津島 から出土した黒曜石で作られた 日本列島でも一番古 (1 時代 \mathcal{O}



37000 年前 人類が日本列島へ来た頃の石器 (神津島産黒曜石製石器:沼津市遺跡報告書 2011))

跡で斧が出てくるが一体何に使ことがありません。最初の古い遺

ではそれ以後、ほとんど出てくる ところだけなんです。旧石器時代

だったんじゃないかとなりまし ったんだろうという話で、丸木舟

のです。斧がでてくるっていうの

旧石器時代でも斧が出てくる 一番古い石器に注目しました。

されます。

は旧石器時代でもまあ一番古い

で、

がいろいろ試行錯誤していく中 かっていうことで海部先生たち では本当にどうやって渡ったの たちがいたのかということです。

げたということで、NHKでも取キロを四人で丸二日がかりて漕 作ってやってみたら、実際に二百 作したらしいのですが、丸木舟を 葦を使った舟などいろいろ試

> その当時は良く見ていて、与那国 あと思った覚えがあります。 に上陸した時は、ああよかったな んです、私もちょっと気になって。

上陸してから内陸に入っていた ホモ・サピエンスは、相模湾から でも、やはり神津島の黒曜石が出 ということが示されました。 う集団の系譜が神津島へ渡った、 適応していた集団がいた。そうい に最初にやってきた人類は海に んじゃないかということが想像 てくるので、おそらく最初に来た こうした実験を経て、日本列島 綾瀬の遺跡とか、相模原の遺跡

言ったように神津島に渡った人

なぜそういうことをやろうと思

ったのかというと、一つが先ほど

舟を使って渡ろうという研究が、 ことで、台湾から与那国島に丸木 しょうか。三万年前の航海という

NHKの番組で紹介されました。

縄文時代の黒曜石輸送

うようなことがわかってきます。 場所であったと考えられます。 出発する拠点であり、神津島に渡 の中で海に張り出した所がある すね。見高段間遺跡という、河津 つは、伊豆半島の南部の河津町で たったかというと、その候補の一 す。神津島に渡る時どこから行っ その一例をお話したいと思いま こからどこに物を流したかとい が海を渡ってどこに上陸して、そ より具体的にどういうふうに人 いろ遺跡が見つかってくるので、 って戻ってきたときの荷揚げ んですが、そこの遺跡がおそらく 縄文時代になってくるといろ

なぜかと言うと、

一九・五キロ

方が、本当に海を渡れるのかとい 立科学博物館にいらっしゃった ましたが、その前に上野にある国 今は東京大学の博物館に移られ 先生たちがいらっしゃいました。 渡れるのかという疑問を持った 人類学の海部陽介先生です。その 三万数千年前に人が神津島 り上げられました。これには私の ました。逐一ツイッターで今どこ る前に連絡をいただいたりもし 知り合いも関わっていて、出発す いますっていうのが出てくる

岩脈から剥がして持ってきた未の黒曜石の原石、原石というのは 五千年前に神津島の黒曜石がよ 代の前期から中期、七千年前とか ていうのを示すんですね。縄文時 大きいのを持ってきてるんだっ ています。おそらくシンボリック な意味で、うちの集落はこれだけ 使われています。 工の石のことですが、それが出

でしょうか。 て上がって行ってうまく反流で とするときは、黒潮の分流に乗っ てくる。渡って戻ってきて入ろう うのは、おそらく島伝いに上がっ わけです。今度北上するときとい う状況になっていくんじゃない ここに辿り着けるかどうかとい まず海を渡って南下して行く

ります。そういうふうな島伝いの でに南と北に遺跡が集中してお 行こうとしたのではないでしょ た次の日頑張って、あの隣の島に 陸して、ちょっと一晩休んで、ま えず頑張って行こうって一回上 いるのでしょう。そこまでとりあ が見えるところに拠点を築いて と、次の島が見えるから、次の島 ルートを使って上がってきてる んだろうと思われます。 南北にあります。なぜかという 伊豆諸島の遺跡はだいたい島 伊豆諸島は本当に見事なま

げされてからはどうなるのかと 豆半島南部に黒曜石が荷揚

> でしょう。 ています。二五〇キロ以上の黒曜 と大体二五〇キロの黒曜石が出 思います。見高段間遺跡では、二 集落で色々なものと交換したの ら多くの石器を作り、さまざまな す。そして、たくさんの黒曜石か ん出ていて、 十キロの黒曜石以外にもたくさ 石を割っているのではないかと 石を神津島から持ってきたので いうと、おそらくここである程度 破片なども合わせる

小田原城東曲輪遺跡

らそういうところに持ってこら というと、青橋を渡って競輪場の 製石器三二五点のうち神津島産 の黒曜石が出ています。 ますが、そこでも九〇キロぐらい 部の方に原口という遺跡があり 出土している遺跡だと、平塚の北 の近くで神津島の黒曜石が多く れたわけです。そのほか、小田原 しが良いところです。見高段間か ほうに行く途中の右側の見晴ら ます。東曲輪の第Ⅰ地点はどこか が二八四点でほぼ九○%となり 輪の第I地点の遺跡です。 黒曜石 した遺跡の一つが、小田原城東曲 おそらく見高段間遺跡と交易

これは誰でもできるわけじゃな いのです。 人々がいて交易を行っています。 海を渡るほぼ専業に近いような こういうふうに縄文時代でも 潮を見て今日渡れない

> う経験がないといけないわけで っていうのを判断できる、そうい

伊勢から相模湾への稲作伝

きたかということです。 きます。視点はこれまでと同様、 海からどういうふうに伝わって 究の話をこれからさせていただ の専門としている弥生時代の研 る、弥生文化のはじまりです。私 相模湾の沿岸地域へ稲作が伝わ 話はいよいよ本論になります。

始めて、生産性が上がっていく中向くことが多いです。コメを作り 団の間でいさかいが起きて、敗れで、さまざまな利権をめぐって集 いかと思います。 ストーリーで語られることが多 がる。こういう農耕社会の発展の 大きな古墳を築く集団へとつな大きなムラになっていく。それが たところは廃れ、勝ったところが 金属器、そして戦さなどに関心が 弥生文化というと、水田稲作、

として重要視されていませんで 耕を始めた弥生時代の文化の戦 注目されるようになってきまし 人々というのは、最近でこそ少しそれに対して海を航海した る海での活動などは、研究の対象 漁撈など縄文文化の「香り」がす 後研究では、海での活動というと たがまだまだです。 弥生文化を語る上 なぜなら、農

というのは伝わって来るのです が、そこに寄与した人というのは、 では、特に伝播、 西から水田稲作

これからもっと明らかになって

稲作文化が伝わったと私は考え に来るんです。 からビュンと飛んで相模のほう ですが、実はそうではなくて伊勢 イメージがあるかもしれないん 東海に行って、関東に来るという 瀬戸内に行って、近畿に行って、 きるわけですが、そこから順々に 州に伝わってから弥生文化がで 文化が伝わってくるわけです。九 ず朝鮮半島から九州の方に稲作 ています。弥生文化というと、ま 人々によって、伊勢から相模湾へ 行きたいと思います。このような 海を生業としていた人々の話に いくのではないかと思います。 それでは、黒潮を渡るような航

と思います。 あと中里遺跡(紀元前三世紀)く その辺の話をさせてもらいたい ということがあります。これから 人々が相模湾の方にやってくる らいの時には、どうも伊勢湾から 時代前期(紀元前六世紀)、そして 今日話をさせていただく弥生

田原地域での稲作の始まり

期という少し新しくなってから えられていたんですが、最近ちょ 弥生時代の集落が営まれると考 かつては関東だと弥生時代 台地·盆地 自然提防 低地·砂丘

っと変わってきています。

弥生時

と調 の遺跡の発見そのものはもっと 大学が十数年前からずっと継続 ところにある遺跡です。昭和女子 生命の旧本社ビルがある丘陵の が大井町の中屋敷遺跡です。第一 ことが分かってきています。 地方には稲作が伝わったという 紀元前六世紀から紀元前四世紀 して発掘調査を行っています。こ その大きな起点となった遺 いんですが、 [査をやるようになってから いの間には、もうすでに関東 年代幅があるんですが、 昭和女子大がずっ 跡

が出てきた。クリやトチノキは縄トチノキも炭になった状態の殻 取って食べるというのですね。食 が出てきた。それと同時にクリや てみたら、炭になったコメ・アワ 掘ってその土を丁寧に水で洗っ ことが分かったことです。遺跡を ういうものを食べていたという 時代前期にすでにコメやアワ、そ 料でそれにコメやキビ・アワとい 文時代以来の食糧です。 いろんなことが分かってきまし った栽培植物も食べている。弥生 代の前期にすで南関東地方で 何がすごいかと言うと、弥生 木の実を

し食べていることがわ かったと思います。 実際にコメなどを栽培 り、かなり衝撃が大き

稲作文化を伝えたの は

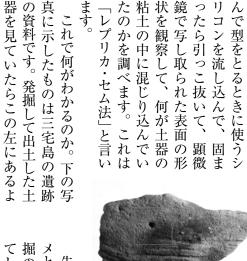
小田原周辺の弥生時代開始期の遺跡(小田原市 2021) な研究が 境として、関東地方の弥 とが問題になります。こ えてきたのかというこ わって来たのか、誰が伝 イネとかがどこから伝 一時代前 中屋敷遺跡の研究を そうすると、ではこの 後んで 期のいろいろ いくわ

調査をするだけで しているのか。 今どう 、るのか。単に発りいうことを研 2つのように見えます。 って、それを拡大すると右の写真 で見たら表面に細かい凹凸があ 流し込んで引っこ抜いて顕微

。それは

ことがあります。 発掘されたものを今の研究 発掘以上に、 いろんな研 直すと かつて 究があ いう

状を観察して、何が上で、 鏡で写し取られた表面の形 ます。 す。 たのかを調べます。これは粘土の中に混じり込んでい リコンを流 は、この穴の中に歯医者さ きた資料をあらためて研究 終わって二十年ぐらい経 表面にポツポツ穴がありま しました。よく見ていると、 た逗子の池子遺跡の資料な いうと、例えば、発掘調査 んで型をとるときに使うシ んですが、 「レプリカ・セム法」と言 実際に何をやってるかと 最近よく行われる研究 発掘調査で出て し込んで、 固ま



ったかということがったか、食べ物があ

があったか、

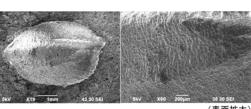
種があ

地域にどういう穀物

作られたときにその よって、この土器が をやっていくことに こういう細かいこと

写し取られるんです。 粘土に穀物の形状が なくなるけれども、 しまいます。焦げて

分かってきます。



とを知らずに一生懸 を作る人はそんなこ れが混じって、土器

いたのでしょう。 くにコメ粒が落ちて ねている時に多分近

そ

命作って、

焼き上げ

(表面拡大)

いうとイネの

粘土を捏

三宅島 島下遺跡から出土した土器片とコメがあった空洞の写真

は焦げてなくなって

たら入ってるコメ粒

使う方法だと確実に土器

層の中に入ってしまうというこが下に落こってしまって古い地新しい時代の地層に入ったもの とがあるんですが、このシリコン 掘の最中とかで上から落ちてき グラが動いていると本来もっと まうことがあります。ミミズやモ てしまって下の方に混ざってし メというのは、何らかの原因で発 先程お見せした焦げた種やコ

うなと思って、そこにシリコンを

鏡

一つあるんですね。これなんだろ

うな土器片の方にポツンと穴が

こうした研究が最近では行われ あるということがわかるんです。 られたときに、こういう食べ物が

川県でも結構栽培が行われ と、コメは弥生時代が始まる頃に ら結構出てきます。こう見てくる 沢同明遺跡がありますが、そこか があるところです。あの近くに平 ります。 は秦野市の平沢という地名があ 跡の他には中屋敷遺跡です。あと 栽培植物の痕跡は伊豆諸島の遺 にコメとかヒエとかアワという たことが分かってきました。 もうすでに関東地方の南部、 土器の表面に残る植物の ちょうど出雲大社の分祠 種 神奈 てい

遠賀川系土器の分布

名前がつけられています。 る川で、そこで見つかった土器の 川は福岡県の東の方を流れてい 系土器というのがあります。遠賀 とマニアックな話ですが、遠賀川 る指標となるものとして、ちょっ あともう一つ弥生文化を伝え

は一番古いものです。同じような ます。だからこの土器が見つかる 土器が九州から始まって四国、 たとして捉えられています。 と、その地域に弥生文化が伝わっ この土器が弥生時代の九州で 東海まで広がってい 瀬

が丸くなるという特徴なんで 状としては、 首が細くなって

> しています。 がるような。この形によく似た土 器では、ちょっと首が九州より細 ら伝わって、大阪の美園遺跡の土てつくられた土器ですね。九州か 器が名古屋市の西側の朝日遺跡 くなって胴の部分がボテッと広 鮮半島南部の土器の影響を受け いのです。弥生時代になって、朝 いう形の土器は縄文時代には無 (清須市、 これが一つの指標です。こう 名古屋市西区)で出土

ージしてもらうのにちょうどい ぐらい前の写真で大きさをイメ です。この胴の部分がボテッと広 知県のものなどとそっくりなん ですよ。 財になっています。結構大きいん これは神奈川県の重要指定文化 いと思ってよく使うんですが、今 ています。左の写真は私の二十年 が、神奈川県の平沢同明遺跡で出 そしてこれと同じようなもの そしてこの土器の形が愛



遠賀川系土器 (平沢同明遺跡)

を見てみると、三宅島や新島で確

ある資料がどこの遺跡にあるか 土器の表面にコメなどの痕跡が

かと思います。

次に先ほど示した

ないで東に来ているんじゃない

くここは飛ばしていて、

寄り道し

辺りにないということは、おそら 伊勢湾にたくさん出てくる。

静岡

認されています。

そして、その遺

らいで一点あるんですがほぼ す。 です。ここだともう一〇点以上出 五点あるんです。また三宅島の島せん。ですが伊豆諸島の新島には ています。 頃の写真にあった、平沢同明遺跡 くるのかと不思議なものです。そ す。なぜこんな島でたくさん出て 下といいますが、ここにもありま 他からはほとんど出土していま って、富士市にも一点ありますが、 い。もうちょっと駿河湾の奥に入 岡西部にはほとんどない。豊橋ぐ 遺跡でこの土器は出土してい 岸、この辺までは普通に出てきま 次に多いのは先ほど私の若い そこから東に来ると浜松、静 伊勢湾沿岸の東西では多くの しかもみんなこの 無 ま

て、 という指標になっているわけで 生文化が伝わってきているんだいう土器が出てくるとこれは弥 方ぐらいまで分布している。こう な形の土器が西日本から関東地 がり、首はキュッと細くなってい 口も広がっている。 同じよう

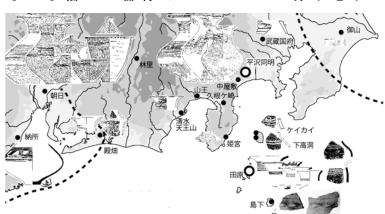
遠賀川系土器の製作地

ください。 が出てくるというふうに思って)が下の図になります。黒丸が付 地域で出土するのかを示した ているところにそういう土器 では、この遠賀川系土器がどこ

0

11

番多いのは愛知県伊勢湾沿



遠賀川系土器の分布図(伊勢から伊豆諸島・相模へ)

がどこにあるかを追っていくと、 で出てきています。 遠賀川系土器と呼ばれるもの

れていても復元できるような形い壺が割れないで出て来るか、割

パドルかわかりませんが、

で

す。数人が乗って両側でオールか いではないかとも言われてい のではないかなと思います。

こういう船は時速十キロくら

ま

想像されるわけです。 上がっていく、こういうルート って行って相模湾に入り内陸に いている。その後、島伝いに上が 沖を通って伊豆諸島にたどり着 乗って遠州灘などを渡り駿河湾 大きな壺が出ています。こうした跡から遠賀川系土器と呼ばれる 稲作を知っている人たちが、船に ことから、おそらく伊勢湾の方で

弥生時代の船

が出土しています。横須賀の資料江遺跡から弥生時代の船の部材 土しています。静岡県浜松市の角の元となった弥生時代の船も出しています。実際に、この土製品 は、こうした形を忠実に真似たも 被ってくる波が入らないように を立てることによって、正面から て波除け板という前の部分に板 こないように作っています。そし 面に少し板を張って、波が入って 基本に作っています。丸木舟の側 います。これを見ると、丸木舟を を模して土で作ったものが出て 横須賀の矢ノ津坂遺跡で、船の形 んですかと思うかもしれません。 生時代にそんな航海できる

> 代の人たちも航海することがで きたのではないかと思います。

このようにして、実際に弥生時 (次号につづく)

MECOにおける小田原史談会総*本稿は、二〇二三年五月七日、U 河が編集しました。 会時の講演を基に、諸星・青木・荒

令和5年・小田原史談会 初詣へのお誘い

武蔵御獄神社 (青梅市)

武蔵御嶽神社は、標高 929 メートルの御 岳山頂にあり、武蔵国を守ってきた天空の 神社で、古くから関東の霊山として自然を

敬う関東一円の人々から信仰されてきました。また、お犬様信仰としても 有名です。

実施日: 令和5年(2023年)1月18日(水)

行先: ①武蔵御獄神社および、②吉川英治記念館(青梅)

集合解散: 小田原駅西口(早雲像前)7時30分出発、18時解散予定 参加費: ¥8,000 (会員 ¥7,500)(昼食代込み、当日徴収します)

募集人員: 30名(最少催行人数20名)申込先着順

申込方法: 12月1日より

> 小田原史談会 (諸星) 電話 0465 - 43 - 9803

> > rta85071@nifty.com

問合せ先: 同上

〒二五〇-〇二〇六

電話〇四六五- 四三- 九八〇三 小田原市曽我原五三八-六

幸雄

*なお、新型コロナウイルスの状況によっては、中止することがあります。

新会員紹介

会員の方へのお願い 新会員募集

へ連絡願います。申し込みは史談会役員または左記 味をお持ちの方にぜひ会員になっ ていただくよう、 募集しております。郷土の歴史に興 会費は年額三千円です。 田原史談会では常時新会員を お誘いください。

御名前 望月 石井 宮崎 木 彩子 恵太 善雄 桂 (敬称略) 東京都品川区 小田 小田 小田 原市穴部新田 原市久野 原市栄町 御住所

小 田 原の梅干(下

前羽地区を中心に

前号の概要

原梅干の逸話を整理し、見えた課 前号では、先行研究を元に小田

史実とは言い難い。本稿では中野 け継がれたが、出典が不明であり 諸説は、その後の多くの文献に受 野敬次郎と青木恵一郎が著した 典拠が不明なものが多い。特に中 逸話には新旧諸説あるが、根拠や 題を提示した。小田原梅・梅干の

大正初期の国府津駅前における共同初荷風景(文献(9)より)

原中心に確認した。各地の任意組内の漬物組合の成り立ちを小田業史について取り上げた。まず県 地方は製塩当時から漬物業が発 説の「塩田があったからで、 展」「文化文政の頃、前川村の商人 合が、戦時統制下の必要に迫られ が、甲斐奥羽に梅の買出しに行っ た」について探究することにした。 また近代の神奈川県内漬物産 でを概観した。 工業協同組合として成立するま て合併し、神奈川県全体の漬物

初の駅弁「東華軒」の事業が果 を示す史料は現存しなかった。 会より、前羽の漬物業の当時の 生じた特徴をまとめた。明治期 列に整理し、時代の変遷により 産業について語った元役員座談 いて、新聞・雑誌の記事を時系 たした小田原梅干の製造・販売 近代以降に製塩が行われたこと 様子を歴史的背景とともに補足 した。前川の製塩業については、 また、近代の小田原梅干につ の貢献についても考察した。 県西部を代表する東海道本線 さらに戦前〜戦後の県内漬物

> 開発され失われたが、代わって市 部の梅林は戦後復興の名の下に るが、日清・日露戦争後の大正 生産拠点のみならず観光梅林と 内東部の曽我梅林が整備された。 は隆盛期を迎えた。戦後、市中心 増加し、兵糧食として小田原梅干 には戦争特需で梅干の生産量 して発展していった。 までは小田 |原町内の観梅を報じ が期

の活動をさらに詳しく見ていき 今号では、 前川 (前羽) の商 人

の商人の活動について

ほど遠方からの梅の集荷は現実とされても止むを得ず、当時これが、出典が不明のため憶測・推測 だが、そのヒントを得た記事があ 当時の梅実の輸送手段は限定的 的でないと石井氏は疑問視する。 に梅の買い出しに行った」と記す の頃、前川村の商人が、甲斐奥羽 と密柑山の狭間で長く梅干・漬物 たちの県外活動に言及しており 済航路」である。前川の漬物商人 九六二)八月二十四日発行の「経 る。神奈川新聞、昭和三十七年(一 著した『前羽村誌』は「文化文政 作りに勤しんできた。その村長 少し長いが、新たな資料として抜 小田原市前川(前羽)は相模湾 が

経済航路(378)

な関係があったため万吉は文

400年の歴史 しコレラ、 赤痢で需要増す 前羽のウメモ

け物の技術の手ほどきに当た うけたのが動機となって全国 葉を供給する下中地区と密接 は義太夫が得意だった。シソの 野松吉ら店の者がいっしょだ 椎野松五郎らに飯島清太郎、 の山崎喜兵衛、小田原の小峰徳 り、(中略) 当時の仲間は和歌山 を建立されているが、各地でつ くに、万吉は静岡県小笠郡池新 にひと手に納入したりした。と |地で||つけこんだり、前羽に輸送 群馬の各県でウメを集荷し現 的に活躍した。和歌山、静岡、 納入するよう政府から命令を は日清戦争の軍用ウメ干しを た)端(は)唄が得意だった。 した。いずれも義太夫、小唄(う つぎ箱根の宿屋へ製品を行商 そなどつけ物業を創始したと メ干し、紅ショウガ、金山寺み った。(中略) 利助は長唄、万吉 したうえ、軍の糧秣(まつ) はてんびん棒でつけ物箱をか いう。二代治助、三代安次郎ら 屋といい、業界最古参のひとつ。 登録商標が丸長、屋号を金山寺 (中略)四代利助、五代万吉ら (中略) 六代前の長左衛門がウ にウメ干しの元祖として碑 万吉の弟の伊藤半四郎、 □丸長椎野食品工業所 廠

楽下中座 行に出た。 を製造している。 母親トキに育てられ十九歳で 干し、ホトトギス巻き、その他 つくっているほか、前羽でウメ 群馬、福島でウメ干しを の語り手になり旅興 (中略) 六代目万吉は

誌』でも「近年に至りては駿遠地 い付けも現実味が増す。 代であれば、遠方からの梅実の買 など公共交通機関が発達した時 疑問が残るが、時代が下り、 奥羽までの買い付けや集荷には 届いたとは記すが、現地で漬物を 付けた梅が各地から国府津駅に なる。また『前羽村誌』には買い の漬物商人の県外活動の確証と 郡池新田の碑は、実在すれば前羽 など初出が多い。特に静岡県小笠 座の語り手になり旅興行に出た」 ている」「利助は長唄、万吉は義太 歌山の山崎喜兵衛」「六代目万吉 どきに当たり」「当時の仲間は和 るが、各地でつけ物の技術の手ほ の元祖として碑を建立されてい 静岡県小笠郡池新田にウメ干し 方から紀州方面の産地にまでも た記述はない。文化文政期の甲斐 漬けたり、指導をしたり、といっ は群馬、福島でウメ干しをつくっ 天が得意だった。万吉は文楽下中 現地でつけこんだ」「万吉は 四 代利助、五代万吉らは和歌 群馬の各県でウメを集 鉄道

> 原市場に上し、 である」と述べている。 して再び其生産地に錦を飾るの った梅実が小田原梅干の名を冒 その購買力を及し、前川村の製造 十数軒によりて塩蔵されて小田 山萬、○長、○イ、其他 全国各地から集ま

先によっては生業である梅干用り旅興行にも出たとあるから、旅 得意で文楽下中座の語り手にな 相互の行き来もあったと考える の梅の買い付けと趣味を兼ねた のが自然である。万吉は義太夫が 仲間が和歌山にもいたとなれば、 事を元に、前川商人の県外活動を 指導をした可能性もある。この記 遠出で、訪れた各地で漬物の技術 おり、真実味がある。梅干製造の 記事は多くの具体例を挙げて

梅はどこから来たか― 『池新田村誌』 御前 游市

べると、幾度かの変遷を経て、現 されている」という事実を確かめ 属していることがわかった。そこ 在の静岡県御前崎市に池新田が るため、静岡県小笠郡池新田を調 ウメ干しの元祖として碑を建立 万吉のウメ干し元祖の碑につい た「万吉は静岡県小笠郡池新田に て尋ねると、農林水産課よりご回 00年の歴史─橘町」で見つけ 神奈川新聞の記事 御前崎市社会教育課を通じて 経済航路

> 中がこの梅園を訪れたのは大正が、静岡民友新聞の記事から、田設置者名などは記されていない 訪れていた可能性が高い。 助言頂いた。石碑には建立年月や とを示唆するのではないかとご 梅実の買い付けや漬込みの指導 で、万吉の活動が同時期ならば、 羽村誌』も大正十五年一月の発行 月十日だったことがわかる。『前 設置年は昭和四年(一九二九)二 の石碑建立に万吉が出資したこ の碑に纏わる話は、この「香玉園」 た石碑が現存していた。椎野万吉 名づけて揮毫した文字が刻まれ 内大臣の田中光顕が「香玉園 った池新田の梅園を訪れた元宮 祖と記された碑は存在しないと 答を頂き、椎野万吉および梅干元 に万吉や前羽の商人がこの地を 十五年(一九二六)二月ごろで、 ピと

さらに、『池新田村誌』の梅の 前羽村との関係を示す一文がらに、『池新田村誌』の梅の項

ドブ漬トシテ神奈川



明した。『神奈川縣農會報』に 梅実を集荷していた事実が判 前羽地区は静岡県小笠郡池 給地として記された静岡縣 (現御前崎市池新田) から 大正二年当時、 新

あると以下をご教授頂いた。

奨

(励等ヲ図リシ

価格 四七〇〇株 梅園 梅樹 シ、風蘭盛ニ寄生スルモノアリ。 ノナランカ。頗ル花樹多ク苔蒸 所ヨリ自然ニ発達増殖セルモ キヲ見テモ其ノ収益ノ存スル 跡ヲ発見シ難ク、且野生種ノ多 梅ハ特ニ 四三 約三町歩 五二五五

町前浜ニ販出ス。

一〇円

県甲

津

石

五.

百

兀 + 貫 株数



ある。さらに遡って明治期から梅 地区の商取引を裏付ける史料で 小笠郡地方とも符合し、従って両 実を集荷していたとも考えられ

極めて貴重な史料である。 すべき存在であったことを示す が小田原梅干の製造増産に特筆 産に勤しんでいたと判明した。 林が整備される以前から梅干生 えられるので、前羽地区は曽我梅 ようやく曽我梅林公園計画が伝 我梅林は、この翌年の大正三年に 池新田村誌』の文言は前羽地区 の梅の生産拠点である曽

土地柄ではないだろうか。 に文楽や地歌舞伎などが盛んな は不明だが、下中地区と同じよう 記事では文楽下中座の旅興行先 可能性も高まった。神奈川新聞の 福島といった他県との商取引の 判明したことで、 て極めて有利に働いたであろう。 の利は、前羽地区の漬物業にとっ 送の拠点である鉄道駅に近い地 漬込んだ商品の出荷にも、物資輸 いた。各地からの梅の集荷にも、 分界駅にもなり、大いに発展して いた当駅は、その後御殿場線との 基地として重要な役割を担って 府津駅に隣接している。機関車の 七)に開設された東海道本線の国 前羽地区は明治二十年(一八八 静岡県との梅実集荷の事実が 和歌山、

相模人形芝居下中座と旅興行 -梅の渉外活動

長く続いたことから、淡路や阿 波などの人形浄瑠璃と異なり、

に人形芝居を招くスタイルが

はある。 り、文楽下中座の旅興行の途上、 興の動きがある。両県はどちらも と福島県で文楽の活動を調べる けや漬物指導に当たった可能性 梅の産地を擁しており、前節の通 度廃絶したが、現在は高倉人形再 が判明した。福島県も郡山市日和 あり、伝統芸能として盛んなこと と、群馬県には多くの文楽拠点が 万吉が梅の産地で梅実の買い付 田に高倉人形が伝わり、 はもっともなので、敢えて群馬県 して名高い和歌山との梅実集荷 現在でも日本一の梅の産地と 明治に一

期に大坂の人形遣い、吉田金花・ 正四年に人形連に乞われて小竹小竹に滞在して指導に当たり、大 八五九)生まれ、昭和七年(一九 実弟や義弟、 は東京の人形遣い西川伊三子 たちに稽古をつけた。明治末期に 駒十郎父子が村に滞在して農民 代に始まったと伝わるが、明治中 た。二七〇~二八〇年前の江戸時 から「小竹の人形」と呼ばれてい いう。以前はその活動拠点の地名 文楽下中座について概要を記す。 に移住した。 左衛門)が同じく人形遣いである ここで万吉が参加したという 現在は、相模人形芝居下中座と 明治末から昭和にかけ 西川は安政六年(一 義太夫の妻を伴って 伊

されている。

県の重要無形民俗文化財に指定

に指定された。残り二座は同年に

を含む三座が昭和五十五年(一九在五座が活動しているが、下中座

八〇)に国の重要無形民俗文化財

る三人遣いの人形芝居を指し、現

在の神奈川県中部~西部)に伝わ

この相模人形芝居は相模国

現

の時期とも重なっている。

て活躍した。

池新田との梅実買入



「伽羅先代萩 政岡忠義の段」

演するには語り手が必要となる

座付きの太夫がおらず、座が公

に伝承されている。

ておらず、人形の操法のみが座 太夫・三味線が座に常時所属し

ため、義太夫上手の万吉が旅興行

に同行したと考えられる。

地区の小田原梅干への貢献

『池新田村誌』発見の意義と前

相模人形芝居下中座公演

高まった。県外との商取引は、 も梅実の取引があった可能性が ある。これにより、その他の県と 各地の梅産地と縦横にネットワ が整備される前から前川商人が浜に販出ス」の一文は、曽我梅林 に尽力していたことを明示して 羽地区が他に先駆けて梅干生産 活動を示す極めて貴重な史料で でいた証拠であり、県外との渉外 ため精力的に梅実の集荷に励ん ークを築き、堅実な供給量を保つ ブ漬トシテ神奈川県甲府津町前 難くない。『池新田村誌』の「ド で、原料梅を集める苦労は想像に 梅の産地でない狭小地の前川 前

食に欠かせない産業として成長 田原梅干も例外ではなく、 戦争」が深く関与していた。小 近代の梅干の需要・発展には 戦時糧

が語られていた。稽古の仕上げや嗜みとして盛んに義太夫節 代末期には富農や商家の趣味 た神奈川県西部地域は、 (前略) 相模人形芝居の伝わっ 江戸時

(11) 第271号

到底間に合わず、近隣村の注力をには町内の梅干生産量だけでは 干の隆盛を支えた影の立役者で していた前川漬物業は小田原梅 らず、各地から梅実を集荷し加工 必要とした。産地でないにも関わ めたが、その高まる需要に応える 戦争特需により隆盛を極

は、まだ小田原町域ではなく、独が記された大正十五年(一九二六) 存在であると主張した。 って前羽製造の梅干は傑出した を嘆き、敢えて「相州」の名をも る。」と記し、前羽産の梅干が「小 勃興したのは此に存するのであ と、なつた。前羽の新名物として 梅干の名が世界に唱道さるこ を保つに過ぎずして、此處に相州 用して實は前川の製造である」 立した前羽村だった。村長の椎野 小田原梅干の名は僅かに餘喘 原」の名で販売されている無念 前羽 (前川) 地区は 『前羽村誌』 「相州梅干 小田原の名を専

らかにしたと考える。 原梅干への知られざる功労を詳 突き止めたことは、前羽村の小田 人の県外での渉外活動の事実を 今回、時代は違えども、前川商

商人の活動まとめ

が梅の産地ではない前羽地区で 名産品である小田原梅干の製造 論では神奈川県小田原市 \dot{O}

> 代以降、その生産拠点として機能た。小田原梅干が名産品となる近 価しようと試みた。 産業史の中で捉え、背景にあった てきた前羽の梅干漬物業を近代 し小田原梅干へ多大な貢献をし 々の活躍を掘り起こして再評 んになったのかを追究し

と、その活動は趣味と実益を兼ね 買出しに行った」に通ずる前川商 た渉外活動であったとの推論を 前川村の商人が、甲斐奥羽に梅の 人の県外活動を見出し、その特定 神奈川新聞に「文化文政 0 頃

御前崎市社会教育課を通じて確 外活動の事実を明証した。 外活動を行っていたことが判明 見し、前川商人が実際に県外で渉 を出荷した事実を記す一文を発 (一九一三)当時、静岡県の池新ったが、『池新田村誌』に大正二年 認を行った。この碑は存在しなか 建立されている」のか、現静岡県 の記述とも符合し、前川商人の県 した。これは『神奈川縣農會報』 田村から神奈川県の前羽村へ梅 田にウメ干しの元祖として碑を 前川商人は「静岡県小笠郡池新

引先であった近隣の下中村で活梅干作りに必要な紫蘇葉の取 動していた小竹の人形(現相模人 形芝居下中座)の旅興行に、前川 .実取引の渉外や漬物指導を兼 人が義太夫として同行した際、

> 外活動ではないか、との推論は今 れは趣味と実益を兼ねた梅の渉 人の旅興行帯同の事実確認と、そ能性は十分あると考える。前川商 後さらに追究したい課題である。 論だが、梅の産地である群馬や ねていたのではないか、は未だ 島では文楽が盛んなため、その 可

知られざる功労があったという干製造に尽力した前川漬物業の 外からも精力的に梅実を集め た小田原梅干の発展の影には、県近代の戦争特需で隆盛を極め 梅

田原梅干の展望と今後の活用

た純和風建築で、現在、白秋童謡正十三年(一九二四)に建てられ顕の別邸が小田原に現存する。大と名づけた元宮内大臣の田中光 に竣工したスパニッシュ様式の 館になり、昭和十二年(一九三七) 集荷した事実が明らかとなった。 静岡県御前崎市池新田から梅を ここまでの検証で、前羽村が現 池新田村の梅林を訪れ「香玉園

取引の実在を紹介する展示や、両村と池新田村の知られざる梅実 ている。小田原と池新田の双方に 洋館は小田原文学館本館となっ 地域を跨ぐ新機軸のイベントは、 地での梅まつりの同時開催など、 縁のある田中光顕の別邸で、前羽 や地域再生に寄与する している。

ている。 喰い梅干し屋」は防災用品「備え 梅」を小田 ーで全国の梅干を提供する「立ち 開が期待される。東京スカイツリ 進に向け協働するなど、新たな展 活かした先駆的な生産事業の推 産地と交流を深め、互いの強みを こうした活動の先に、全国の梅の 場産業の振興に役立てるだろう。 発信することで、 干」など商品化に活用し、小田 下中座の関係を「相模人形芝居梅 の伝統文化・名産品を広く内外へ 前羽村の漬物商人と文楽 原の杉田梅で商品化し 伝統の継承や地

小田原を含む十三の市町が加盟 興に寄与することを目的」として 産業の発展を図り、もって地域振 かした観光文化の振興と梅関連 的交流を行うことにより、梅を生 る加盟市町相互の情報交換や人 成され、「「梅」を共通の資源とす は「全国梅サミット協議会」が結実際に平成九年(一九九七)に

待される。老舗の一つである、ち 新たな地場ブランドの創出が期 小田原梅干も伝統を継承しつつ 商品開発を進めるべきであろう。 もまた、世界市場を視野に入れた を集める中で、伝統食である梅干 に登録された。和食が世界的注目 食」はユネスコ世界無形文化遺産 平成二十五年 (二〇一三)、「 自社の梅製品に加

神奈川新聞、昭和三十七年(一九六二) 社WEBマイクロフィルムサービス、 (1) 石井啓文 『小田原の郷土史再発見 (2)「経済航路」(378) 神奈川新聞 夢工房、二〇〇五年 小田原の梅―歴史背景の謎を追う

の情報」

静岡県御前崎市農林水産課

「静岡県御前崎市池新田に関する一

連

註 二年

50周年記念史』、食料新聞社、

一九九

沖様よりご提供賜る。

拝謝申し上げま

ス卒業論文を基に執筆したものである。 都芸術大学通信教育課程歴史遺産コー *本論考は令和三 (二〇二一) 年度・京



現在の(株) 椎野食品工業所の製品

https://www.shimonaka-za.com/ 不明、 ータ取得2021年6月26日 7 6

相模人形芝居下中座 HP

一九一三年(大正二年九月編)

潮風と神奈川のつけ物50年史:創立 立50周年記念史編集委員会『湘南の たなる旅立ち』、株式会社オールプラン 業100年記念誌 新生ハローズ (8)記念誌編集刊行委員会『東華軒創 神奈川県漬物工業協同組合 一九八九年十一月十八日 新

(この記事の正確なタイトルは以下) 経済航路 年の歴史 赤痢で需要増す 下郡 (103) 橘町 前羽のウメ干し 敬称略(378) コレラ、 $_{0}^{4}$

る事業を展開している。かつ日本の良品を世界に発信・販

3 椎野藤助『前羽村誌』、

市場へ事業展開していくことが 田原梅干を今こそ、新たなる世界 にあるを覚えぬ」と言わしめた小 て「相州梅干によりて、身の異郷 売する事業を展開している。

一九二六年

の部 (4)前羽小学校編『郷土の研究 地理の部』、一九三八年

川漬物前川蜜柑』、一九三八年((5)前羽小学校編『郷土誌 著者不明『池新田村誌』、発行者 増補 前

☆拓本集団 [星の組]☆始動! 会員募集中

相模地方には、未だ文字資料化されず、秘かに眠 っている金石文がかなりあると推測されます。

小田原史談会では、これらの金石文を探し、これ を拓本、さらには解読するチームを立ち上げます。

つきましては、この活動に参加される方を募集し ます。拓本に興味を持っておられる方、ぜひご参加 下さい。

申込連絡先: 鳥越銑之助 e-メール torigoe.se@gmail.com tel 0467-83-8366



星野和子氏採拓(令和4年7月)

はどうであったのか、未だその内

浅 羽 佐喜太郎とファン・ボイチャ

小田原浅羽佐喜太郎の会 会長 石 井 敬士

羽佐喜太郎との関わりについてン・ボイチャウと前羽の医師・浅 重信、犬養毅、佐喜太郎について ズー)運動」に対する日本側の支 あり、ボイチャウの「東遊 るだろうか。 日本のどの位の人達が知ってい 援活動はどうであったのか、大隈 明治時代、日露戦争直後の事で ベトナム独立運動の志士ファ ドン

調査すべき研究の視点について 判明している概略とともに、今後 ン・ボイチャウの関わりについて 容は未知なところが多い。 本稿では浅羽佐喜太郎とファ

> ベトナム独立運動と日本での (ドンズー)運動」

る。 ために一生涯戦い続けた志士の のベトナムにおいてその独立の カンボジア、ラオス、ベトナム) 一人がファン・ボイチャウであ

の遊学運動である。 また、

下でアジア諸国の独立運動の志 るようになった。このような状況 国と肩を並べる強国と認められ 勝利したことにより、歴史上初め 士たちは日本を目標とし、日本に て黄色人種が白人に勝ち、欧米諸 日本は一九〇五年、 学びに行こうと考えた。こ 日露戦争に

浅羽佐喜太郎(文献④より引用) が、一九〇七年六月十日の 年まで四年余続けられた 領土権等の保障が合意さ アジア地域における両国の 日仏協約の締結によって、 一九〇六年から一九〇九 在日ベトナム人の独立 ―東遊運動に対する日

東

フランス領インドシナ (仏印

「東遊運動」とは日本へ

れが「東遊運動」である。

三月にはボイチャウ、十月に彊柢 くなった。そして遂に一九○九年 (クオンデ) に国外退去が通告さ

ファン・ボイチャウ(潘佩珠)

執筆、一旦帰国、 アン省ナムダン県サーナム村生 一九〇五年 来日、「越南亡国史_ (会長 彊柢 九〇八年 八六七年 中部ベトナム 、ゲ 南公憲会設立 彊柢と再来日

国 一九一二年 越南光復会結成 中

事件で死刑判決、 一九一三年 决、後釈放、「獄中地方行政長官暗殺

軍将校により暗殺された

<u>五</u>.

分かる」という言葉を残して陸海

一九二五 年一一月二三日 死 刑

四歳 フエで一五年間軟禁 一九四〇年一〇月二九日 (無期懲役) 没七

クオンデ(彊柢

越南復国同盟会結成 死 一九五一年四月六日 会の総裁となる 畿外侯、革命の志を抱き越南光復 一九〇九年一〇月 国外退去 一九〇八年 早大に入学 (一八八一~一九五一) 九〇六年 九三九年二月 越南光復会→ 九一九年五月 再来日 日本に亡命 日本で客

本の支援者たち

結成、初の政党内閣を組織した。 学)を創立。一八九八年憲政党を 同年東京専門学校(後の早稲田大 の翌年立憲改新党を結成。また、 大隈重信 (一八三八~一九二二) 九一四年第二次大隈内閣を組 一八八一(明治一 九〇八年国府津に別荘を建 四 年の政変

閣を組織したが、翌年、 **犬養毅**(一八五五~一九三二) 一九三一年、戦前最後の政党内 「話せば

五事件) 九〇八年一二月、吾妻村 (現二宮町) に別荘を建てた。 原 田

浅羽佐喜太郎

ど不明の点の解明が必要とされ されたことと関連はあるのか、な ウ、クオンデらがどこでどのよう 運動」は日露戦争後の数年間であ ○年代以降、国府津、二宮に建設 人の別荘が前羽を挟んで明治四 信や犬養毅との関わりは、また二 にしていたのか、その中で大隈重 ったが、日本において、ボイチャ 中で調べていくこととなる。 ファン・ボイチャウらの「東遊 佐喜太郎との関わりも当然そ

浅羽佐喜太郎の生涯

ある。 する家柄である。父義樹は浅羽家 は最も格式が高い梅田村八幡宮 井市梅山の浅羽家は、浅羽地区で (現梅山八幡神社)の宮司を世襲 佐喜太郎の生まれた静岡県袋 八幡宮司(一一代目)

さ(一七歳)と結婚 以降は父の住む東京で暮らす まで梅山の祖母のもとで過ごし、 大学医科大学(現東大医学部)卒 九〇〇年 九〇二年一月一五日 八九四年一二月二四日 八九〇年 八六七年 八六四年 九〇一年一月二八日 八七五年 浅羽医院開業 第一高等中学校卒 佐喜太郎生 姉なほひ生 佐喜太郎はこの年 大塚ま 長女ゆ 帝国

さ没 九 九〇九年一二月二九日 九一二年三月七 (二五歳) 一〇年九月二五 (四五歳) \mathbb{H} \mathbb{H} 父義樹 佐喜太 妻ま 没

前羽村と佐喜太郎

前羽村をご存知でしょうか。

多

(七七歳)

村名は残っていない。明治二二年 ので略述してみる。 くの方がご存じないと思われる 昭和三〇年の足柄下郡の自治 村は現在小田原市に含まれ、

> 位置し、南は相模湾に京体名で、大磯丘陵南西部 と合併した。 三大字を編成し、役場は前川にあ 村および近隣四村の飛地が合併 った。昭和三〇年下中村と合併し して成立、 る。足柄下郡羽根尾、前川の二ヶ て橘町となり、同四六年小田 南は相模湾に面してい 羽根尾、 、前川、 の台地に 、川匂の 原市

げられる。 近い。この一つの理由として、前 後の課題となる。しかし、前羽に 明治三三年に浅羽医院を開業し、 羽に図書館が無かったことが挙 関する佐喜太郎の資料が皆無に の交際等不明な点が多くあり、今 たのか、前羽との関わり、医者間 ていたのか、何故前羽を選んだの 行った。大学を出てどこで何をし 亡くなる四三年まで医療活動を か、医院の医療活動はどうであっ さて、 佐喜太郎は、この前羽に

ないかと想像される。資料収集に 集が殆ど行われなかったのでは →橘という範囲における資料収 和八年開館ということから、前羽 どっている。 小田原市に合併という過程をた ついては今後鋭意行われなけれ 前述のように、 小田原町図書館は昭 前羽は橘町から

浅羽医院と医師活動

書きを持っていたが、その肩書き 佐喜太郎は帝大卒医学士の肩

> **日**浅間神社 浅羽医院跡 Ħ 〇水場跡 个 古墳 国府津 ◀ 国道1号線 → 平塚 → 浅羽医院の標柱があった 相模鴻

的な存在であったと思われる。 ことから周辺地域の医療の中心 羽小の分校)の校医を勤めていた 野信一の父・久雄) や国府津小 (前 を持つ医者は周辺にはいなか た。また、前羽小(初代校長は牧

うであったのかも不明である。 もないのに何処から出ていたの つの方向性を示唆したものとい がある。医院の運営についてはど か、など合わせて調べてみる必要 資金や寄付金等は大学を出て間 はどうであったのか、医院の建設 の援助について、資金面について 佐喜太郎」は、 よる「『伊達時日記』に見る浅羽 いなかったが、昨年出版された 「約束の海― (後述)における中山史奈子氏に また、医師間の交流も知られて 一方、佐喜太郎のボイチャウへ -浅羽佐喜太郎物語」 佐喜太郎研究の一

中郡医師会長車鉄道社長や

浅羽医院のあった場所(文献④から) であり、 あるが、衆議院 い状況であっ がままならな を主としてき 議員、県会議員 宮の眼科医で

伊達時は二

湘南馬

が、資料収集

小

田 原方

0 調 面

郎との交流が散見する。私見では 行う必要があるということであ でなく中郡方面の調査を新たに に思われる。 医院間の相互支援(佐喜太郎の内 中郡方面における医師間交流や に顕彰碑がある。日記には佐喜太 ゆる二宮の名士であり、二宮駅前 さらに、前羽の立地と佐喜太郎 従来の小田原方面の調査だけ 時の眼科) 知りたいところであ を行っていたよう を勤めた、いわ

ったのか、 衛生事情との関わりはどうであ 自身の保養あるいは当時の医療・

ファン・ボイチャウとの出会いと

接的な接触は、一九〇七~一九〇 佐喜太郎とボイチャウとの直

れる。九年の二十 勝利したことにより、 日本は日清戦争に勝利 年余の間だけと考えら

であったのだろう。 の志士たちの活動も活発な状況 辛亥革命も数年後に控えて各国 考えたものと推察される。中国の 志士たちが日本に援助を求めた おいて、アジア諸国の独立運動の うになった。このような状況下に 肩を並べる強国と認められるよ 等条約を改正、さらに日露戦争に あるいは学びに来日しようと

り、その中に大隈重信、犬養毅、 の賛同者、支援者に頼る活動とな の直接の援助は受けられず、 本はフランスとの同盟を結んで の独立を目指していたのだが、日 ランスの支配下にあり、そこから との出会いがあった。前述のよう 動」も多難ではあったが、このよ 佐喜太郎がいたのである。 ナム、カンボジア、ラオス)はフ うな中で佐喜太郎とボイチャウ に、当時のインドシナ半島 ベトナムの志士たちの「東遊運 ボイチャウらは日本国から ベト 国内

の活動は官憲の取締りに会うか がりがあったのであろうか、志士 ボイチャウをめぐって何かつな は犬養の別荘が一九〇八年 前羽には佐喜太郎の浅羽医院 頃に建設されているが、 国府津には大隈、二宮に (明治

> きな一助になったと考えられる。 ねばならなかったと思うが、彼ら について鋭意収集に努めていき 後、前羽と佐喜太郎に関する資料 あり、佐喜太郎の支援は彼等の大 の活動は建国への偉大な行いで 資料は今のところ少ないが、今 厳しい状況を乗り越え

顕彰の碑

を訪れたボイチャウが、佐喜太郎一八年(大正七年)再び日本の地 彰碑が建っている。これは、一九 たものである。 への感謝の気持ちを込めて建て [の常林寺境内に佐喜太郎の顕浅羽家の墓所である袋井市梅 浅羽家の墓所である袋井市:

浅羽佐喜太郎公紀念碑

酬蓋古之奇侠也嗚呼今竟無公矣蒼茫天海 俯仰誰訴爰泐所感于石銘曰 予等以國難奔扶桑公哀其志拯於困弗冀所 我志未成公不我待悠悠此心其億萬載 豪空古今義亘中外公施以天我受以海

賛成員

大正七年三月 岡本節太郎 岡本三治郎

浅羽 義雄

我らは国難のため扶桑(日本)に [碑文略解] (後藤均平訳)

> 亡命した。公は我らの志を憐れん たらよいのか。ここにその情を石 の気持ちをどのように、誰に訴え たる天を仰ぎ海を見つめて、我ら ある。ああ今や公はいない。蒼茫 に古今に類いなき義侠のお方で で無償で援助して下さった。思う

浅羽、ボイチャウ研究の意義とこ

越南光復会同人謹誌

大杉旭嶺鐫

に進める。 の三点を挙げてみたい。 後の調査、研究の視点としては次 ウの関わりを紹介してきたが、今 ⑴ 浅羽、ボイチャウ研究をさら 以上、浅羽佐喜太郎とボイチャ

辺における調査については積 ベトナムや生誕地の袋井市 極周

前羽の歴史・文化の調査

両者関わりの意義をさらに追求 い。両者の出会いの場所の調査、 が、前羽周辺の資料は極めて少な 的に進められていると思われる 佐喜太郎の功績を顕彰してい

郎の伝記的要素に焦点を当てた 年代における佐喜太郎と前羽で 調査を進めたい。明治三〇~四〇 年余に過ぎない。そこで、佐喜太 は優先的な事であるが、生涯の二 きな関わり、意義等の追求、 な意義があることと思われる。 した地域活動、医療活動について い。特に前羽の浅羽医院を中心と 活動は郷土調査としても大き 佐喜太郎とボイチャウとの大 佐喜太郎の生涯と浅羽医院



浅羽佐喜太郎公紀念碑(文献④より引用) 全列右から2人目がファン・ボイチャウ

判っていないが、その中で、

洞約

浅羽佐喜太郎物語』とし

2

「東遊運動以降の日本とベトナムの

これまで述べたように、前羽に

ける佐喜太郎については殆ど

めることとなる。 知悉することは する重要な要素といえる。 (3) については (1) 0) (1) 理 4解を深 地域を を補完

いに喧伝された。 増大など、温暖な気候、風土が大 もない、湘南海岸の発展別荘等の においても東海道線の開通にと きな役割を担ってきた。明治以降 から東西の歴史文化の交流に大 西側にあり、東海道に沿って古来 宮と境を接している。湘南海岸の 前羽は小田原市国府津 :の東、

府津〜大磯等に多く居住した。 れ、また、文学者、文化人等も国 北村透谷由縁の北村家、牧野信 前羽における別荘も多く造ら

る基礎的資料の発掘に努めて 掘り起こしのためにも、地域を知 べきことは多くあり、地域文化の 家の浅羽氏との関わり等、調査す 時と北村家との関係、また、北村 れらの集大成が求められる。伊達 など、調査対象等も多くあり、そ く所存である。 島崎藤村の「春」、車坂の文学碑 ひさしの母マス等、文学者、また、 堀喜之助・新井恵美子父子、 の父親 (前羽小初代校長) 、岩

> 判も良く、上々の成果といえる。 といえるものである。県内外の評 よび斎藤良夫氏らの研究グルー 館〟の秋澤達雄館長、毬子夫人お てこられた
>
> 「江戸民具街道博物 従来から佐喜太郎に関心をもっ 子氏が佐喜太郎を小説化された。 プによる調査研究活動の第一弾 この発刊を受けて「小田原の図 昨年の九月、 作家の新井恵美

と思われる。その交流を大切にし ものとして、それらが重ねられる 当日は秋澤毬子氏、お子さんの傑 る斎藤良夫氏の講演が行われた。 浅羽佐喜太郎物語〟について」と 毎に大きな絆となって行くもの アの国々との友好・交流を支える 氏・松田理香氏も出席された。 いうテーマで、本書の監修者であ 講演会において、「〝約束の海― による令和四年度総会における 前羽での小さな出会いは、アジ

つつしんで哀悼の意を表します。 秋澤達雄館長が急逝されました。 最後になりますが、本年八月、

参考文献

斉藤玄、 ①「ベトナム亡命人と浅羽佐喜太郎 日 困窮を救った熱い、アジアの精神、 朝日新聞昭和五五年九月二六

> 五七年 学研究費補助金研究成果報告書、昭和 いて」岡倉古志郎代表、昭和五六年度科 関係―アジアの民族運動との関係にお

③「ベトナムの民族主義者ファン・ボ 録編集部、昭和五七年(『西さがみ庶民 郎との交遊」石塚勝治、西さがみ庶民史 イ・チャウと小田原の医師浅羽佐喜太 創刊号

郎と潘佩珠―」柴田静夫著、 「報恩の碑─義侠の医師浅羽佐喜太 青柿堂、

平

書館を考える会」(宮崎淳子代表)

成二 (5)

ン・ボイチャウと浅羽佐喜太郎特集」毎 日新聞平成二四年五月一二日 「日本・ベトナム一○○年の絆―ファ

6

記念碑建立八五周年記念事業実行委員 伝える〝浅羽佐喜太郎と東遊運動〞」 ⑦「蘇る日越史―仏印ベトナム物語 会、平成一五年 「地域と指導者ファン・ボイチャウが

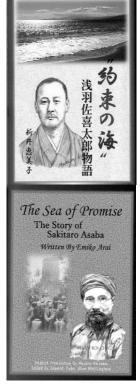
文芸社、 令和三

新井恵美子著「約束の海」─浅羽佐喜太郎物語

新井恵美子 著者 監修 斎藤 良夫 秋澤 傑、松田 理香 編集 挿絵 秋澤 傑、松田 理香 発行所 小田原浅羽佐喜太郎の会 発行者 江戸民具街道博物館 秋澤 達雄 令和3年9月4日 出版日

この物語は静岡県袋井市の浅羽家に伝わる伝承 を元にしたものです。浅羽家の現在のご当主はこ の本を読んで、正に代々継承されてきた話そのも のである、とお手紙を下さいました。小田原に名を 遺した浅羽佐喜太郎について多くの方々に知って いただければ幸いです。(編集担当:秋澤 傑)

今回の出版により、全国に浅羽佐喜太郎につい て個人で調べている方々がいることがわかり驚き ました。今こそ、舞台である小田原の、地元に関わ る偉人として、更なる調査、研究が進むことを切に 願います。(編集担当:松田 理香)



一〇〇年」安間幸甫著、

通常時

洪水時

洪水後

酒 包 系に見る 「治水技術 **(**) 承

片桐 稔晴

玉

0

今も有効?—

はじめ

った。その いう考え方を採用するようにな 二〇二〇年七月に「流域 できなくなったことから、 堤防だけでは洪水を防ぐことが で記録的な大雨が増え、 んだ甲斐国を治めた武田信玄の 「治水の知恵」がある、といわ 近年になって気候変動 原点には、水害に苦し 《治水」と ダム 0 国は 影 れ Þ

のは、 るべきところを考える。 ころから見て、危ないところ、 しがちだが、 防の技術など個別の施設に注 だ。河川の安全を考える場合、堤 授によれば、 山 梨大学大学院の末次 治水をマクロで見る視 「信玄が優れてい 流れ全体を高 流域 忠司 いと 守 目 点 た 教

> 聞」2020年10月27 原点はそこにある」 (「朝 日

新

になるようにした不連続な堤防のことである。洪水時には切れの流量を減少させる。洪水が終め流して堤内地に水を溢れさせ、下流に流れる洪水が満になるようにした不連続な堤防になるようにした不連続な堤防 側の堤防と下流側の堤防が二重に開口部 (切れ目) を設け、上流 る 堤」というのは、堤防のある区間 ているのが、「霞堤」である。「霞 「信玄堤」が思い起こされる。そ 常に合理的な機能をもってい 0) 信玄の「治水の知恵」と 「信玄堤」と同様な機能をもっ 多い日 「霞堤のスケッチ図」)。 本の治水法としては、 こいえば

霞堤のスケッチ図 図-1 (http://www.nilim.go.jp/lab/r cg/newhp/yougo/words/008/html/ 008_main. html より引用) 市を流れる酒 西部の小田原 が、神奈川県

「賃息包別・ 匂川水系にも いては、「 霞堤」 水系の 。この酒 一につ

> 整備計画に盛り込まれるなど全た一方で、那珂川 (茨城県) では野県) では閉鎖を求める声が出り号で被害があった千曲川 (長 土史家からは現在でもメンテナ鎖を求める声がある一方で、郷ともにその意義は忘れられ、閉 付近で洪水被害が発生、年の台風19号では、そ 酒匂川水系で見られ、 いる。「古くから洪水を防ぐため記事の中で、次のように書いて 国的に模索が続いている」と。 る。……霞堤を巡っては、台風1 ンス次第で水害に有効と指摘す 造物としても知られる。 に構築された霞堤、 田 (2020年12 そこで以下では、この「霞堤」 原 台風 19号で浸 月27日) と題する 県西部でも 、その霞堤の一次では、歴史的構 水被 時代と

された大久保忠世・忠関東入封後に小田原のられた治水技術が、毎 う問題意識のもとに、それぞれ承されているのではないかとい とにする。 よる酒匂川水系の改修工 使 着目し、信玄時代に釜無川・御勅 ような機能をもっていることに と「信玄堤」とが堤防として同じ 治水工事の (みだい)川の改修工事で用い 特徴を見てみるこ 世・忠隣父子に田原の統治を任が、徳川家康の 事に継

その「霞堤」

その際に留意する必要がある 信玄時代の治水技術を大

0

系の改修工事にもこれら技術者事に取り組んでおり、酒匂川水子市街の浅川・南浅川の改修工いて家康の関東人封直後の八王率する技術者集団「金山衆」を率率する技術者集団「金山衆」を率 集団の技術支援が考えられるか 大久保長安は、 ことを可 である。 ながら滅亡後に家康に仕えた である。武田家の遺臣 世 能にした大久保長安の 忠隣父子が 甲 州時代から統 承 であ する

改 武 (修工事 田 信玄と釜無川 御勅 使 Ш

の

視野に入れながら、 もある。ここでは、前者の意味も 造物を含めた総合的な治水シス と呼ばれる水制工 で「信玄堤」を取り上 テム自体を「信玄堤」という場合 調整する工作物) だけではなく、「聖牛」・「将棋頭」 年斐市竜王にある不連続な堤 のことをいう。広義にはそれ 「信玄堤」とは狭義には、 などの治水構 (水の勢いを 後者の意味 上げる。 山

いる。 守るために築いたと伝えられて武田信玄が甲府盆地を水害から 源として駿河湾まで流れる「急 水害を引き起こしていた。 「河川」であることから、古くか 、田信玄が甲府盆地を水害から 信玄が治める甲斐国 富士川上流にある「信玄堤」は 富士川は、南アル プスを水 内陸

(825) に甲斐国で大洪水が

あ

川」の名前

は、天長二年 ちなみに、 に日

て

Ш 士

(1542) に発生した釜

工事

天文十

加上流

あ 頃 る

その甲府盆地の平野部は、いその甲府盆地の平野部は、いる流する地点では洪水の危険性が非常に高い(図―2「改修険性が非常に高い(図―2「改修防性が非常に高い(図―2「改修の甲方盆地」では洪水の危い。一2「12」では、図ー3「10」では、10円方盆地」、図ー3「10修後では、10円方盆地」、図ー3「10修後では、10円方盆地」、図ー3「10修後では、10円方盆地」、図ー3「10修後では、10円方盆地」、図ー3「10修後では、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円方面が、10円面 せたことに由来するという。はそれを受けて「勅使」を下向:甲斐国司が朝廷に報告し、朝廷 7 '被害が発 Ш 生したので、 や御勅使川が氾濫 当時の 2 L 図-2 改修前の甲府盆地(参考文献(1)より)



改修後の甲府盆地(参考文献(1)より)

 $\overset{6}{\overset{0}{0}}$ が、江戸時代になってから「甲州時に用いられた治水技術・工法 名武田氏による甲斐国の国 費やした大工事であり、 推定される。 記録されていることから、促し堤防の管理に当たらせ ぐ上流にある「高岩」と呼ば り・戦力増強の一環だった。この 頃に工事がおおむね完成したと 地 税が免除される代わりに、 流工法」と呼ばれるようになる。 って始められたとされて この改修工事のポイントは、 ..然の崖に「直角合流」させて、 無川に合流してくる御勅使川 し堤防の管理に当たらせたと (竜王河原宿)への集団移住を に「棟別役」という諸役や い流れを、「信玄堤」のす 使川の大氾濫が契機とな 約20年の歳月を 永禄三年(15 の国づく いる。 . この 川除

で分流された流れを釜無 ①開削: ①地点を開削 Ĺ ΪÏ \bigcirc う 導 じ す

石

将棋

頭

间様

を弱める。

玄堤」を構築する。弱まった流。⑥信玄堤:「高岩」の下流に「 水が発生しないように、「出し玄堤」がしっかり受け止める。 「一の出し」と「二の 不 連 続 堤 とし ての 茁 洪信れ信

るところにある。この刺刺使川の流れた 修工事は 参照 治水工事のイメージ」を図―4「信玄堤に関わる ことが分かる。それを、 素 から構成されている しながら見てみる 事は、次のようなA ころにある。この改 使川の流れを変え までの 8つの 要

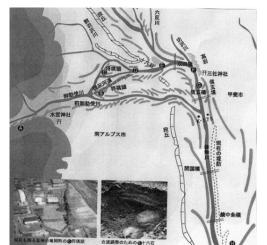
大な「石積出し」を構状地への入り口)に巨の扇頂部(谷合から扇の扇頂部(谷合から扇と、 築して乱流を防止し、

分流させて勢いを弱める。 圏将棋頭:「将棋頭」®で流れなのででである。 ②将棋頭:右と同じ。 を

⑪が 転用された治水技術が用いられ「石積み」という築城技術から を安定させる治水施のくられ、乱流を防 た水を堤内に留め川に戻す。 **(防が決壊した場合には氾濫し)開口部:堤に切れ目をつくり、** あ つった。



石積出し(参考文献(2))



信玄堤に関わる治水工事 (参考文献(2)より引用)

「卸存系」は、占来こは毎年四年では古くから、堤防の安全を祈念する川除祭礼が行なわれているが、「信玄堤」では中世れているが、「信玄堤」では中世れているが、「信玄堤」では中世れているが、「信玄堤」では中世れているが、「信玄堤」では中世れているが、「信玄堤」では中世れているが、「信玄堤」では中世れているが、「信玄堤」では中世れているが、「関本系」は、「対策系」は、対策系」は、対策系」は、対策系列を表する。

一ノ宮町一宮)、甲斐国二宮の美甲斐国一宮の浅間神社(笛吹市幸」とも呼ばれた。「御幸祭」は、前者は「夏御幸」、後者は「冬御月・十一月の亥の日に実施され、「御幸祭」は、古来には毎年四





写真-2 御幸祭当日の光景(文献(1)より引用)

信玄はこの祭りを強く奨励した。「御幸祭」では、神輿の担した。「御幸祭」では、神輿の担る規模)に参加する人びとが三る規模)に参加する人びとが三つの神社のあいだを練り歩くつがが、それらだけでも大変な数の参加者になるので、堤防の土を踏み固めることにもなる。ちなみに、この「御幸祭」といちなみに、この「御幸祭」といちなみに、この「御幸祭」という変は、担ぎ手の男性が赤い着物を着て化粧をし、女装した姿

日の光景」)。 となっている(写真2「御幸祭当めであり、男性の担ぎ手だと恥めであり、男性の担ぎ手だと恥めであり、男性の担ぎ手だと恥めであり、男性の担ぎ手だと恥めであって、これは祀られて

修工事 大久保長安と浅川・南浅川の改

と名乗る。

姓を許され、「大久保十兵衛長安

|室に迎えたことから「大久保

子(与力)」となり、忠隣の姪を

王子中心街となっている。 天正十八年(1590)に高尾 大城(城主北条氏照)が、豊臣秀子城(城主北条氏照)が、豊臣秀 吉の北条征伐の一環として前田、 吉の北条征伐の一環として前田、 大徳川家康が旧城下の町(元 した徳川家康が旧城下の町(元 した徳川家康が旧城下の町(元 した徳川家康が旧城下の町(元 大部町が基本となり、今日の八 王子中心街となっている。

えた大和国の猿楽師大蔵大夫の大久保長安は、武田信玄に仕

して大久保長安

宗当 城主大久保忠世・忠隣父子の「寄 のた の合戦で戦死)とともに武田家 なさ の合戦で戦死)とともに武田家 ないた の士分に取り立てられて「蔵前 ないた の世分に取り立てられて「蔵前 ないた の子として生まれ、兄新之丞(長篠

八王子の町づくりが行なわれ 八王子の町づくりが行なわれた時期は関ヶ原の合戦前であり、
た時期は関ヶ原の合戦前であり、
た時期は関ヶ原の合戦前であり、
作成を築城した加藤泰光が二十
四万石で、次いで浅野長政・幸長
四万石で、次いで浅野長政・幸長
四方石で、次いで浅野長政・
であった。

江戸から見てその最前線に位置する八王子で、大久保長安は置する八王子で、大久保長安は後に横領などで一家断絶となったことにより、長安の事績については、江戸時代を通じて評価いては、江戸時代を通じて評価いては、八王子でも宿の建設については、大久保長安ではなく方なったことになった。最田作左衛門という北条浪人が行なったことになっている。したが、浅川・南浅川の改修事業に

行して行なわれ、新では町の建設と周辺

0)

へ検の地

と考えられて

0

支

いってか る。

陣屋、

宿場や社寺などがあった。

時、

河川敷が広い

上は

部の段丘上に甲州街道、代官河岸段丘が二段になっていて、浅川右岸は自然地形の状態で

期間のうちに、長安は改修事業 が「八王子宿」)への移住が、ま た千人同心の記録によれば、文 た千人同心の記録によれば、文 が「八王子宿」)への移住が、ま が「八王子宿」)への移住が、ま いる。 みずから た浅川右 を行と町 わっている。三年間という短いの拝領地への移転がそれぞれ終禄二年(1593)までに千人頭た千人同心の記録によれば、文が「八王子宿」)への移住が、ま 移住記録 (1592)までに横山、八日 八年 割り、 右岸の沖積低地に新町と (1590) から同二十年 「宿越」によれ 道路整備、そして検 代官陣屋をつくっ 大きな集落がなかっ 長安は改修事業 ば、 市 天正 地 称 は茂浅 川黒:川 追 分宿

> 図-5 寛政元年千人町地図 (参考文献(3)より引用)

流水方向

頭角をあらわし時代の長安は、 彼の周辺に存在していたので、 技術者集団「金山衆」が引き続きたっている。また、その頃からの 信じられないほどの短期間での り年貢徴収などの 事を可能にした。 角をあらわし、 金山 技術力が必要である。 笛吹川などの のような一町 などの鉱 な土木工事などで 「蔵前衆」として づくり」で 土木工事にあ 民政はもとよ Щ 地方支配や、 「経営、 甲府 釜無 は、

八流して同月。、透川は石の河原が続き、通常高差がある。当時この付近の高差がある。 八王子の町は、 して雨期や降水時にのみは石の河原が続き、通常 れていたようで (上流側) から新町 千人町に続く 「水無河 (下流

> 洪水が平野に流入するために浅川右岸の 等でいなかった。江戸時代の千人町の絵図 時代の千人町の絵図 を見ると、今日の水無 瀬橋 (八王子城古道が 川を越える所) の上流 にあたる場所に「川 にあたる場所に「川 にあたる場所に「川 にあたる場所に「川 の湾曲部などで水の が強く当たる箇 平る洪た 地がが、 などと かられて

人町地図」)。 と思われるもの (図―5「寛政元年千 0) が

代から現在まで同じ場所に南浅該地は河川用地も広く、江戸時代に比べてはるかので、江戸時代に比べてはるかので、江戸時代に比べてはるか明治以降の改修でつくられたも明治以降の改修でつくられたものと思われるが、当 ががり川代 該にの明が 分かる。 続けられ でもっとも強固 、王子治水の要所であること ていることで、ここ な場所がつく

がはな

0,1

文時代から安定

た居住地であることが分かっ

た壌土が深く、

洪水を被った

る。

形しいかの流南所

からは一

形をつくり、

(乗上学・)。左岸の段丘上は財乍こでのは一段の段丘崖をつくってのは一段の段丘崖をつくってのは一段の段丘崖をつくってのは一段の段丘崖をつくって

れる川口

日川の

り、浅川の河川敷のあいだが台地上

浅川

合流 5

点の

対岸では

北側を って、

で

は

0

ほどであ

会に 大士地になり、それまで多摩丘 た土地になり、それまで多摩丘 をの裾を縫うように河川敷から 陸の裾を縫うように河川敷から を通っていた甲州街道が、左 上を通っていた甲州街道が、左 上を通っていた甲州街道が、左 大土地になり、それまで多摩丘 ている。 浅 Ш の右岸、 とくに町 の西半

古川越道 北条 大善寺 (AL 八王子城古道 行 横山石 八楼宿 5555 찶 円 門 社 永明院

図-6 江戸時代前期の八王子宿 (文献 (3) より引用)

衝としての性格を強めたことと原などを結ぶ戦略的な交通の要山道筋と東海道筋の相模・小田 関係する。 むように する 東 が、 地 甲州街 方に 武蔵・上 代の は 別の相模・小児・上野などの方 有力武 道 江 のった八王子の一大八王子の一大八王子が配い (甲州道· 城 田中

筋の変更と流路の固定、③浅川筋の変更と流路の固定、③浅川の「直角合流」によって水勢を減速し、④左岸河岸って水勢を減速し、④左岸河岸って水勢を減速し、④左岸河岸って水勢を減速し、④左岸河岸って水勢を減速し、④左岸河岸。近水地を組み合わせて洗堀防止と土地の有効利用を図っている。 せるのに必要な強固な川除とし②南浅川を浅川に「直角合流」さは越流を防ぐための連続堤防、修を同時に行ない、①南浅川で の位置や町割りなどについて王子は、町づくりから現在な洪水による破壊が少なく、地球水のなから現在なが少なかなかった浅川右岸にあるがのでは、町でくりから現在ながのでは、町では、町では、町では、町では、町の ての「石見土手」の設置による川 期から 浅川の 子は、町づくりから現在まで少なかった浅川右岸にある八 時代前期の八王子宿」)。 「浅川」という2つの河川の改 変更がない (図―6 「江 改修事業は、 割りなどについても 浅 堤防 Ш

や鉱山の た町づくりを可 0 掘削技術などから 石積みなどの 築城 13 す

> といった「甲州流工法」が用 えた「霞堤」や遊水地などの設置 による流 速の調整、③洪水に備 いら

水系の改修工事 久保 • 忠隣父子と酒

匂

Ш

あ

方に流り た「鮎沢 で合 郡山 川」とが神奈川県足柄上郡山北内(かわうち)川」とこの「鮎沢らに、丹沢山塊を源流とする「河 町で合流して、「酒匂川」となる。 合流して神奈川県内に入る。 静岡県駿東郡小山町で「須川」と 一 一 内 裾野を北へ流下する。 御 上上 北町、 .流れ下って神奈川県足柄上.匂川は、はじめ山間部を東 Ш 殿場以北の小渓流を合流 しながら 3 東麓を源流とし、 「尺里(ひさり)川」、 松田 などの支川を相 いでいる。 は、箱根外輪山 平野部を南下 |町で「皆瀬川」、 川 」と合流 その総 そして、 して 静 次 さ 側 L

> 3 8 7 k であ 模川に次ぐ第 5 87 m² k で、 名位の 神 奈川 重 一要な 河はは

と酒匂川の堤防の維持に長年の小田原をはじめとして数多くの小田原をはじめとして数多くの外田原をはじめとして数多くの小田原をはじめとして数多くの小田原をはじめとして数多くのい田原をはじめとして数多くのい田原をはじめとして数多くのい田原をはじめとして数多くのい田原をはじめとして数多くのい田原をはじれ、中世以降には平野」とも呼ばれ、中世以降には 11 町より下 だ苦労してきた。 匂 流 Ш の平野部は一角の沿岸のうり

上代においては治水技術上の制約があったため、溜池や山間制約があったため、溜池や山間部の小渓流などを主たる用水源をして耕地が開発されている。として耕地が開発されている。として耕地が開発されている。といっにからである。中世・戦国時代以降になると、からである。中世・戦国時代以降になると、中世・戦国時代以降になると、おいらである。 |約があったため、溜池や山| |上代においては治水技術上|

発事業の遅延・中断とい戦国の争乱が続くことに発が進むようになった。」 されていた か定的 0) が進むようになった。しかし、れていた未開墾地にも新田開ようになり、手つかずに放置での技術的な障害が緩和されした治水技術が進歩し、それ 害の |延・中断という社会| 新田開 所発も 一 ()まな

> 20 安倍川、 安倍川、天竜川などの改修工事勢力範囲の拡大に伴って富士川、 を行ない、 めている。 川・御 る武 投入するとともに、 のために甲 例 年間 えば、 田 制使川のに甲府に にもおよぶ多大な労力 信玄は、 流域での 甲 斐 の盆地 冝 自 0 新田 修工 を流 玉 戦 さらなる 0) 玉 事に約)戦力増 開発を れる釜 大名で

羽生城に二万石での北方に位置する あり、 ę, 五千石を拝領した。嫡にた実績を踏まえて小田 くり 斐・信濃の経略に活躍し、こうし 家 する武田勢と対峙・戦功をあげ、あり、遠江二俣城主として南進 大久保忠世は三河譜代の武将で 嫡男で2代城主の忠隣である。 初代小田 が代小田原城屋かな水田地 水康の 「五・ 北方に位置する武蔵国埼玉郡 荒れ川」 大久保長安が町づくりに励 出した扇状地・足 城に二万石で封じられてい か国領有時代」には甲 城主の大久保忠世と 地帯に変えたのは、 で あ (埼玉県寄居町) 9 心・足柄平野をった酒匂川がつ 嫡男の忠隣 原で四万

ことによって、 在氏国 戸の 後に豊臣系大名である中村一とによって、①家康の関東入 を中心的な政治的拠点とする 関 的な敵国となっな・堀尾吉晴らが対 東入国に合わせて家康が江 は、天正 国となった駿 十八年(1590) った毅河国・遠か封じられて潜 田 原 で東

(23) 第271号

る流路の調整が行なわれて

て

工事も、大久保長安の浅里を行なったためである。 一的康り事川のため、重関一点と とする、という防衛上の 環として取り組まれたのであい、重要な相模国の国づくりのの関東一円支配にとって決定のの関東一円支配にとって決定がの一環であったと同様に、家 環として

いた酒匂川の改修工事を継承すなった忠隣は、忠世が計画してが死去したのちに小田原城主と 半野の東側に一本に路が広がる酒匂川の 事とは、 (1594) に父忠世 扇状地に網目 0 まと Ш 筋

街道で結ぶ軍事・早で通の戦略的拠点を発表して対域の戦略的拠点を対して対域を対しています。 という防衛上の再編成ぶ軍事・民政上の拠点エ子・鉢形・羽生を甲州出る。②小

めるために「春日森土手」、「岩流志を継ぎ、上流からの水勢を弱

発を行なうと

。忠隣は父の遺行なうという壮

(がらせ) 土手」、「大口

1土手」

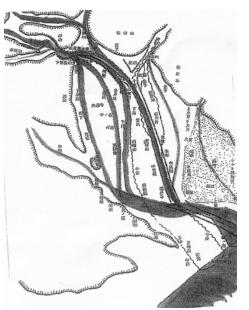
さら

一拠点としての八王子の町づくの改修工事が甲州に対する軍 大久保長安の浅川・南浅 忠隣の酒匂川水系改修 大なものである。め、新田開発を行

に下流には多くの「霞堤」を設け という3つの土手を築き、

て洪水に備えた。

成したことになる。天正十八年 事は慶長十四年(1609)に完代村蓮華寺由緒書」によると、工正徳二年(1712)七月の「千 る段丘崖に当て「流向の直 酒匂川の水勢を「釜淵」と呼ばれ の歳月を費やした大工事であっ ていえば、①「春日森土手」は、 (1590) から実に15年以上 図るための誘導の役割を果た 正徳二年 (1712) 七月の ② | 7 「3つの土手」の役割につい 」、図―8「近世の流路」)。 中世の流路 (想像



中世の酒匂川の流路(想像図) (参考文献(6)より引用)

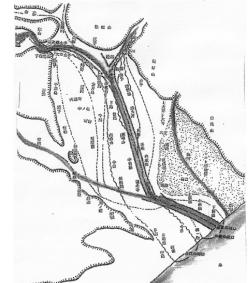


図-8 近世の酒匂川の流路 (参考文献(6)より引用)

ぐように調整する。(図―9「春足柄平野に流下水が穏やかに注に当たった水勢を迂回させて、 の「大口土手」に水勢が直接当たして、つまり①と②を合わせた らないようにする。そして最後 に、③「大口土手」は、「千貫岩」 向の直角化」を図るように誘導 岩」と呼ばれる段丘崖に当て「流



図-9 春日森・岩流瀬・大口の3土手 (参考文献(4)より引用)



図-10 酒匂川・川音川・狩川通堤絵図(文献(7)より引用)

通堤絵図」)。 いること、などが分かる (図―1 た「霞堤」や遊水地が設けられて 右岸には洪水時の越流を想定し 「小田原酒匂川・川音川・狩川

のである。 法」が用いられている。つまり、 ステム」が採用され、「甲州流工 設置といった「総合的な治水シ としての「霞堤」や遊水地などの 流路の調整、③洪水時への備え 化」による水勢の減速、②連続堤 水系の改修工事でも、 「治水技術の継承」が見られる |直角合流||または「流向の直角 こうして川音川を含む (大口土手・三角土手) による ①河川の 酒 匂 Ш

れる。などの支援があったからと思わ 水系の改修工事に対して、「甲州大久保忠世・忠隣による酒匂川 流工法」の技術者派遣・技術供与 大久保長安を介して、 の改修工事に取り組んでいた これは、江戸初期に浅川・南浅 同時期に

おわりに

承されているのではないかとい よる酒匂川水系の改修工事に継 初頭に大久保忠世・忠隣父子に 治水技術「甲州流工法」が、近世 勅使川の改修工事で用いられた りにして、信玄時代の釜無川・御 「信玄堤」と「霞堤」を手掛 題意識のもとに、 それぞれ

> も浅川・南浅川の改修工事を行 だを技術的に媒介し、みずから の際に、双方の改修工事の改修工事を見てきた。 の存在に注意喚起した。 なった人物として、大久保長安 際に、双方の改修工事のあい またそ

システム」が見られ、「甲州流工地の設置という「総合的な治水「信玄堤」または「霞堤」や遊水調整、③洪水時の備えとしての減速、②連続堤防による流路の 減速、②連続堤防による流路のは「流向の直角化」による水勢の 承」を可能にした人物として、大同時に、こうした「治水技術の継 行なわれていることが分かった。 法」という「治水技術の継承」が でも、①河川の「直角合流」また たのである。 久保長安の役割も明らかになっ その結果、いずれの改修工事

霞がたなびくように見える様子か らこう呼ばれている。 (注) 霞堤は堤防が折れ重なり、

王な参考文献

- 的治水術」(「水の文化」32) 土交通省甲府河川国道事務所 (2)「富士川の治水を見る」 (1) 和田一範「武田信玄の総 国
- 水と八王子のまちづくり」(「水資(3)鈴木泰「江戸時代の浅川治 環境研究」27・2)
- (4)『小田原市史 通史編 近世

歴史再発見クラブ) の沿革と氾濫の歴史 特集号」(酒句 (6)酒井茂男「酒匂川: (5)「富士山と酒匂 Щ

酒匂川

絵図」 (7)「小田原酒匂川音川狩川通堤 (小田原市立図書館有信文庫

川水系保全協議会)

- ・「防災を考える 流域治水 原点に 日新聞」・2020年10月13日 ・「「流域全体で水害に備える」(「朝
- 27 日
- 「流域治水」に関する新聞記事
- 信玄の知恵」(「朝日新聞」・同年 10 月
- ・「戦国の信玄堤今も有効?― (「神奈川新聞」・同年12月27日) 小田 原

日

も模索したい」 12月29日 ・「【社説】小田原市の霞堤 (『神奈川新聞』・同年 遺構活用

(足柄の

- 水対策」(「朝日新聞」・2021 年 3 月 27 ・「【広告】始まっています、 治
- ・「【減災】弱点踏まえ「流域治水 (「神奈川新聞」・同年4月19日)
- 日新聞」・同年 12 月 16 日 (「神奈川新聞」・同年9月20日) 「災害リスク 「四減災、中小河川も「流域治水」 地域移転支援」(「朝
- る集落」(「朝日新聞」・同年 12 ・「【災害大国】治水で集団移転 水」(「朝日新聞」・同年 12 月 25 日) ・「【災害大国】川への集中防ぐ流域治 月 25 揺れ

苦瓜の

短歌

田 誠

十の歌十人の子を旅に出す生きて五、 苦瓜の蔓に触れれば苦そうな香と共に顕つ悲しき摩文仁 胡麻塩の髭は剃るべし駅頭に九条守れとビラ撒く朝は インフルエンザの鳥の声がする世界は一つ否応なしと 庭掘れば土に還らぬプラモデル三十年前の子ら連れくる 六首還るもうれし

史談再録(第一五九号より)

銀行支店長を勤めた片岡永左衛門さん

南里哲

関東銀行小田原支店長の片岡さん

片岡永左衛門さんが遺した郷土片岡永左衛門さんが遺した郷土を別係の著作には、『明治小田原町誌』を之助さんは、『明治小田原町誌』を之助さんは、『明治小田原町誌』を一番高く評価されている。
「これがなかったら小田原の明「これがなかったら小田原の明「これがなかったら小田原の明」であるう。これだけでも郷土と関係の著作には、『明治小田原町史関係の著作には、『明治小田原町史関係の著作には、『明治小田原町史関係の著作には、『明治小田原町史関係の著作には、『明治小田原町と版書を表表した。

また、『神奈川県柑橘史』(昭和四十九年、神奈川柑橘農業協同組合連十九年、神奈川村橘開発の先覚者」と神奈川県の「柑橘開発の先覚者」と神奈川県の「柑橘開発の先覚者」と山下讃えている。おそらく『明治小田原町誌』が手がかりになったのであろう。これを基に調査を進めていったところ、先覚者とするにふさわったところ、先覚者とするにふされているい。

業学校に通学、苦学力行した人。苦店社長宅に住み込み、夜間、横浜商の、放人)がその人。配島さんは、若き日、野沢屋百貨の(故人)がその人。

での間の三年間ほどである。事であった。手伝った期間は、片岡書いたものを謄写印刷するのが仕書いたものを謄写印刷するのが仕書がある。

とかし、その仕事がどのような内でも『明治小田原町誌』ではなさそでも『明治小田原町誌』ではなさそでも『明治小田原町誌』ではなさそでも『明治小田原町誌』は、銀行を辞めてから始めた門誌』は、銀行を辞めてから始めたりである。あるいは、『明治小田原町誌』は、銀行を辞めてからからり。

は百円が最高で、取り扱い件数やそに限られている。また、紙幣の単位利用する者といえば、商売を営む人ひけてからであった。当時、銀行をひけてからであった。当時、銀行を印刷の手伝いはもちろん銀行が

関東銀行小田原支店は、青物町の充分にあった訳だ。 売間的な余裕はの金額は少なかった。 三時半に店を

無屋と洋品屋の間に挟まれるよう綿屋と洋品屋の間に挟まれるように奥まったところにあった。今の浜に奥まったところにあった。今の浜に奥まったところにあり、小田原に支店が置かれたのは、明治三十年(一店が置かれたのは、明治三十年(一店が置かれたのは、明治三十年(一九一〇)関東銀行小田原支店として開かれ、明治四十三年(一九一〇)関東銀行小田原支店となった。支店は、小田原のに横須賀、三崎にも置かれ、明治四に横須賀、三崎にも置かれ、地に横須賀、三崎にも置かれ、地に他に横須賀、三崎にも置かれ、明治四に横須賀、三崎にも置かれ、明治四に横須賀、三崎にも置かれ、明治四に横須賀、三崎にも置かれ、明治四に大田の地に横須賀、三崎にあり、小田原支店は、青物町の側であった。

常に骨をおられたと聞いており岸の石の堤防を建設するのに非片岡さんは町の助役時代に海

というと時たま本店に呼ばれて がありません。客と話をする必要 訳です。銀行に来てもなにも仕事 で銀行の看板の役を勤められた いかと思われます。 ょうか。町から移られたのではな ころよりはもっと後のことでし 拡張工事が行われた大正七、八年 たね。支店長にいつごろなられた 出かけて行くくらいのものでし で書き物をされていました。仕事 は滅多になく、奥のほうでよく筆 いて、当時支店長というと名誉職 もよかったのですが、今と違って で旦那という言葉がふさわしい ます。人柄の良い上品で温厚な方 か記憶しておりませんが、国道の 人でした。なにも銀行に出なくて

震災後預金整理で

骨折った片岡さん

片岡さんは、支店長になる前には 片岡さんは、支店長になる前には 時代を で代々 町役人を 動めた家柄であっ で代々 町役人を 動めた家柄であっ で代々 町役人を 動めた家柄であっ でにひっぱり出されたのであろう。 『日本国政事典』で調べると、大 『日本国政事典』で調べると、大 正九年(一九二〇)五月二十六日関 正九年(一九二〇)五月二十六日関 正金銀行、神奈川県農工銀行の接助 正金銀行、神奈川県農工銀行の表 により二十九日に平穏になったと により二十九日に平穏になったと

預金者が引き出しに殺到する状態なにか取沙汰されデマが飛ぶと

けて仕事をしていたら、支払い停のため行内に電灯をこうこうとつ合わないので夜遅くまで突き合せ関東銀行の例ではないが、計算ががあった頃である。

ない。
け騒ぎがあった後のことかもしれに就任したのは、関東銀行に取り付に就任したのは、関東銀行に取り付

勘ぐられたという話もある。

止になるのではないかと預金者に

就任したのもその例である。就任したのもその例である。就任したのも、銀行の経営基盤が現就任したのも、銀行の経営基盤が現就のでもあろう。大正時代、「う語るものでもあろう。大正時代、「う語るものでもあろう」の先々代外郎藤右衛門さんが、初代の駿河銀行小田原支店長に昔から何代も続頭取や支店長に昔から何代も続いた。

ました。

昭和に入ると支店長は、土地の素書や預金通帳などの支店長名はゴ書や預金通帳などの支店長名はゴ書や預金通帳などの支店長名はゴー年代まで行われた。支店長不在のときには、支店長代理が代わっのときには、支店長代理が代わったきには、支店長代理が代わったさいる。方方長人でもあったといえよう。

次のように語る。いる。このことについて配島さんは会って片岡さんは非常に苦労して会って片岡さんは非常に苦労して

置いてあったものですが、無我夢 か非常に長かったような気がし 位時間がかかったものでしょう せんでした。はい出すまでにどの 中だったのですね、足を火傷しま あった瓦鉢の火種に足をつっこ ました。私はカウンターに置いて られすぐ出られなかった人がい 外に飛び出す間もない。閉じこめ ると、突然グラグラと来ました。 敷に入ろうとかまちに足をかけ 役を勤め終わられたと思います。 なにもなく骨折らずに支店長の したがその時には痛みを感じま んでしまいました。客の煙草用に そうです。昼食を食べに奥の座 ええ、震災の時といいますと 震災さえなければ、片岡さんは

ひとりは先輩の旧小田原藩のひとりは先輩の旧小田原藩のひとりは先輩の旧小田原藩のからないものですね。村立つか分からないものですね。村立つか分からないものですね。村立つか分からないものですね。村間とれば同僚の萩原さん(『片岡日一人は同僚の荻原さん(『片岡日本んが持っていたキセルが役に立るが持っていたキセルが役がありました。

かったのですが―。

けるとしたら大変なことだった竹であまれた土壁をもし手であ前垂掛をした時代でした。芯が細行員の服装というと和服と角帯、七川を使っていましたが、当時はセルを使っていましたが、当時は

と思います。

村瀬さんのキセルのことは、その後一つ話になりましたが、村瀬さんが普通のになってからだったでしょいが、時代が、キセルを灰皿になってから時代が、キセルを灰皿になってからがでしたが、村瀬さんのキセルのこと

片岡さんは奥座敷にいて上間さんは奥座敷にいて、背間さんはお孫さんを二人とも亡ら火が出て類焼していました。片路の富貴座の前にあった酒屋かめようと、それぞれ家に戻りましら火が出て類焼していました。片ら水が出て類焼していました。片方、しかし、支店長としての世人され、非常に力をおとされましたが、しかし、支店長としての仕たが、しかし、支店長としての仕事がありました。皆元気でいる

銀行はしばらく休業に入りま はた。銀行が再び開かれるように た。銀行が再び開かれるように なると、預金額の何割だったか忘 本語の調印をとって歩く仕事が を所ましたが、預金を一律に減らす を関ました。当時銀行は不動産を ありました。当時銀行は不動産を ありましたが、預金をの切下げ ため、その分だけ預金額の切下げ ため、その分だけ預金額の切下げ ため、その分だけ預金額の切下が に対していましたが、震災 を預金者に求めた訳です。

(この年八十三歳で亡くなったという)山頂に立つ片岡さん (元本 尾崎正氏所蔵)



ています。
した。当時六十三、四歳だったと思いますが、体は小柄でも丈たと思いますが、体は小柄でも丈たと思いますが、体は小柄でも丈たと思いますが、体は小柄でも丈夫な方でした。当時六十三、四歳だっりました。当時六十三、四歳だっりました。当時六十三、四歳だっ

の歌をはっきりと記憶されていた。ビューに来ているが、配島さんはそた。その報が伝わると新聞記者が銀歌に応募して見事次席の栄誉を得歌に応募して見事次席の栄誉を得震災翌年の宮中の歌会始めの詠進

すき間を漏るる風寒くしていかにして親に仕えん年齢経れど

清水専吉郎さんがまとめた『国学

目三番の割屋敷の入口のところで 番地の所に置かれた。今の本町二丁 ている。小田原支店は幸一丁目二十 が大正十四年十二月十五日成立し 後を承継して新設の関東興信銀行 この銀行と関東貯蓄銀行の整理の である。 のは年輩の人の記憶に残るところ 承け明和銀行となって再出発した 休業に入っている。その整理の跡を 整理を理由に支払い停止、そのまま 実業銀行として新に発足している。 ている。翌二十六日は小田原銀行と 余波を受け十二月七日まで休業し 関東銀行は大磯銀行の支払停止の かけての金融資本の集中化である。 いわゆる大正末から昭和の初頭に ため、整備統合の時代に入っていた。 ばしば起る弱小銀行の、経営安定の たがついた時は、取り付け騒ぎがし ての仕事、預金切り下げの難事がか 業銀行は、翌十四年九月二日に帳簿 小田原通商銀行が合併して、小田原 十三年(一九二四)十一月二十五日、 関東銀行も似た運命をたどった。 しかし、それも束の間、 『日本国政事典』によると、大正 岡さんが名実共に支店長とし 小田原実

大正編」発刊! 小田原史談会「片岡日記

小田原史談会では、昨年11月の「片岡日記・昭和編」に引き続いて、 本年9月に「片岡日記・大正編」を発刊しました。

書籍名:『片岡日記・大正編』(A4版 234頁)

翻刻・編集: 「片岡日記を読む会」

発行; 小田原史談会 発行:2022年9月9日

その頃片岡さんは既に支店長の

定価:1000円(税込1100円)

但し、会員の希望者には500円(送料別)で頒布します、

申込方法:お近くの小田原史談会理事に電話等で申し込む、

または、小田原史談会ホームページ

(https://www.odawara-shidan.com/)「お問い合わせ」に、 「『片岡日記・大正編』本を注文します」と明記して送信。

この大正編は残念ながら7年半分が関東大震 災の火災により失われていますが、関東大地震 による小田原町の被災状況やその復興状況は詳 細にわたり記されています。来年は関東大震災 から百年の年にあたります。改めて小田原市域 の地震災害について学ぶよい史料となるでしょ

また大正期は明治期からの近代化策により 人々の日々の生活に大きな変化がもたらされて きた時代でした。その変化の様子を振り返り、 さらに明治維新を検証しようとする視点から郷 土史家として歩み始めた永左衛門氏の業績の 数々が記されています。

(「解題」より)

本書の読み取り方は各人各様です。関東大震 災は別格として、明治維新後の城の建物・町の 様子や箱根の神仏分離、維新功臣の人物評等々 から、さらには大正期の小田原町の政治の裏事 情に興味をお持ちの方もおられましょう。

私はと言えば、「生活史」と言いますか、「年寄 りから聞く身辺の話」のようなものに惹かれまし (「あとがき」より)



(HP の QR コード)

栽いじりで悠悠自適の日を送っていた は、片岡さんが銀行をやめたあとも、

作るような雰囲気の中に育った訳 連なっており、子供の時から短歌を て「かたおかえいざゑもむ」の名が

れからのことであろう。

ついでながら、付け加えると、

関

をそそがれるようになったのはそ

横浜銀行に改称)に吸収された。 三月、横浜興信銀行(昭和三十五年 東興信銀行は、昭和三年(一九二八)

この稿は、昭和五十年(一九七五)

者歌人吉岡信之歌集』に門下生とし

職を離れてい

『明治小田原町誌』

刊行に全力

生涯を閉じた。 郎氏の許に身を寄せていたが、昭和六 そして横須賀市役所に勤める長男慎一 十一年(一九八六)七月、 晩年には自宅を長女夫妻に譲った。

編者追記

ムである。 著者・南里哲は、 岡部忠夫氏のペンネ

さんは、横浜興信銀行伊勢原支店長を ことを「律儀な人」と記している。配島 などしており、片岡さんは、配島さんの 島さんは釣った鮎を片岡さんに届ける 最後に関連会社役員として出向。退職 『神静民報』に発表したものを加筆 小田原市東町二丁目の自宅で盆 なお、『片岡日記』に

特別賛助会員

田 創 会創立 原史談 刊 昭和三十六年一月 昭和三十年七月 (年四回発行)

AWRIPINA 株式会社能

TEL 22-5185

伊豆箱根バス株式会社

神奈川旅行センター TEL 23-0266

大74 薬局 TEL 090-3215-2001

ΤÏ Œ 原 TEL 34-6101

小田原報徳自動車

TEL 22-4155

かまぼこ 清

TEL 22-0251

かみやま小児科クリニック

TEL 24-0188

(KSK) せ印そば粉製造本舗 久津間製粉株式会社

TEL 0120-34-1157

COMTEC コムテック株式会社

TEL 22-4214

み信用金庫

TEL 22-3121

杉 崎 茂 法 律 事 務 所

TEL 24-1860

う本店 坙

TEL 22-4951

かい 1

TEL 22-2078

ナック中村屋 (株)

TEL 24-2211

平 # 店

TEL 22-5370

報 徢 株式会社

TEL 34-5151

報 徳 会 税理士法人

TEL 23-2171

^{建築金物}(株) 星崎仲吉商店

TEL 34-2718

穂

集

小田原史談会ホームページ URL; https://www.odawara-shidan.com/

南足柄市関本七三〇~ 〒 二五〇・〇一〇五 ております。お問い合わせは左記へ。 **論考・紀行・証言等の原稿をお待ちし** 〇四六五 (七三)

田

原史談」

原稿募集

〇八七九 荒河 純

ホームページ上の会員限定サイトで公開す 今号のトップは杉山浩平さんの あまり活用されていないという現状があ を進めている。準備が整った段階で皆 創刊号からのバックナンバーを、 乞うご期待!

禁無断転載

小〇二二 年会費 原史談会 普 通会員三千

円